

農業土木工事図譜

第三集

水路工編

社団法人

農業土木学会

農業土木工事図譜

第 3 集

水 路 工 編

昭和 59 年 12 月

社 団 法 人

農 業 土 木 学 会

まえがき

農業土木工事図譜としては、「灌漑排水工事図譜集」（昭和8年）「日本取入堰堤誌」（昭和16年）が刊行され、その後 農業土木工事図譜 第1集「取水施設編」（昭和40年）第2集「フィルダム編」（昭和48年）を発刊、各方面から好評を博しているところであり、今回これに続くものとして、農業土木技術者に比較的身近なものになっている「水路工」を企画した。

編集の経過としては、当初、昭和50年に農業土木学会内に「農業土木工事図譜 第3集 編集委員会」を設置し、浅原辰夫委員長（当時 農林水産省構造改善局 設計課長）以下15人の委員によりこの編集に着手したのであるが、いざ入ってみると、水路工は、古くから農業土木の根幹をなす施設として各地に建設されてきたため、その数は膨大なものとなっており、資料の取りまとめに困難を来したと、さらに土地改良事業の種類、事業主体が多岐にわたること等の理由からダム・頭首工に比べ全国的にまとまった良い調査資料が無く、編集に戸惑っていた。時を同じくして構造改善局にて、このような基幹施設の建設統計資料の必要性から「基幹水利資産賦存量調査」が行われることになったので、委員会としてはこの調査結果を待つこととし、一時委員会を休会にした。

昭和54年この調査結果が得られたので再度委員会を開催し、本格的に資料収集・選択・整理とりまとめを行い、ここに第3集水路工編が出来上がった次第である。

この図譜の編集大綱は、いままでの編集構成と同じように「総括編」「個別編」「技術編」の3編に分け編集してある。

「総括編」については、前述の「基幹水利資産賦存量調査」結果をもとに、編集方針をかため、各地方農政局、北海道開発局、水資源開発公団の協力のもとに補足資料の収集、調査結果の検討・チェック等をお願いし、まとめ上げたものであり、全国の大半の農業用排水路の延長及びその付帯施設が掲載されていると自負している。

「個別編」については、「総括編」掲載の水路及びその付帯施設のうち、形状、規模、工法等から判断し、技術的に参考となると思われる62地区を取上げ、その計画・設計・施工内容が理解できるように豊富な図面・写真を添えて掲載した。

「技術編」については、水路施設の現在までの歴史的変遷を記述するとともに、現在における技術的視点から設計の考え方を実施例を掲げて解説したものである。なおこの編については、三重大学松下玄教授他6人の執筆担当者をお願いして技術的に確かなものにしていただいた。

上記にあるように調査が手間取ったり、資料の不足、不備、不鮮明のため、出版時期が予定より大幅に遅れ編集委員会も昭和50年から59年と約10カ年が経過したため委員にもかなりの交代があった。また、編集委員長はその後構造改善局施工企画調整室長に引継がれ平井公雄、坂根勇、小生と4代にわたった。

○編集委員及び執筆担当者

●編集委員

(昭和54年度)

委員長 平井公雄(設計課施工企画調整室長)
委員 伊藤誠道(水利課国営第一係長)
本郷尚文(〃〃第三係長)
松本政嗣(〃補助第一係長)
加川永記(整備課圃場整備第一係長)
飛田義裕(開発課国営第一係長)
金本保持(地域計画課経済係長)
川嶋久義(事業計画課農道整備係長)
金井太二郎(水資源開発公団)
増田明德(設計課農業土木専門官)
松嶋隆司(〃設計審査第一係長)
坂本貞(〃課長補佐)
田中康一(〃設計基準第二係長)

(現在)

中村和也(57. 4. 1)
田口高士(56. 4. 1) 池内透(58. 4. 1)
大久保光二(57. 10. 1)
上野敏光(57. 4. 1) 小林和行(57. 12. 16)
清野修(57. 4. 1) 三好英幸(58. 4. 1)
丸山和彦(56. 10. 1)

白木哲二(57. 4. 1)

斉藤健(57. 7. 19) 亀田昌彦(58. 7. 16)
田村成明(56. 10. 1) 前田勇(57. 4. 1)
木村喜作(55. 10. 1) 大井才一(58. 12. 1)
内田昌男(55. 4. 1) 徳田優三(58. 4. 1)

●「技術編」執筆担当者

三重大学農学部	松下玄	水資源開発公団	渡辺光史
山形県農林水産部	伊藤光	〃	保崎彰吾
農業土木試験場	石野捷治	〃	山田裕
〃	岩崎和巳		

○編集委員会の経過

- 第1回 編集委員会 昭50. 10. 22
(出席) 浅原委員長 有川, 近藤, 真田, 鈴木, 辻, 土持, 中西, 中村各委員
(議事) ・編集内容, 編集構成及び調査表の検討
・スケジュール
- 第2回 編集委員会 昭51. 1. 16
(出席) 浅原委員長 有川, 上床, 佐藤, 真田, 辻, 中西, 中村, 森田, 渡辺各委員
(議事) ・調査表及び調査対象の検討
- 第3回 編集委員会 昭51. 5. 31
(出席) 浅原委員長 佐藤, 渋市, 鈴木, 中西, 中村, 波佐間, 正木, 渡辺各委員
(議事) ・調査表についての検討
- 第4回 編集委員会 昭54. 7. 11
(出席) 平井委員長 伊藤(代)村上, 金井, 坂本, 田中, 松嶋(代)塩浦各委員
(議事) ・第3回委員会からの経過報告及び「基幹水利資産賦存量調査」結果について
・編集構成の再検討
- 第5回 編集委員会 昭55. 3. 26
(出席) 平井委員長, 金井, 坂本, 田中, 中堀, 増田(代)伊藤, 松本各委員
(議事) ・経過報告
・「水路工編」編集調査結果
・今後の編集スケジュール

昭和59年7月

農業土木学会農業土木工事図譜編集委員会

委員長 中村和也

(農林水産省構造改善局建設部設計課施工企画調整室長)

目 次

まえがき

解 説	1
-----------	---

I. 総 括 編

全国水路位置図	3
(1) 北 海 道	4
(2) 東 北	6
(3) 関東・北陸・中部	8
(4) 近畿・中国・四国	10
(5) 九 州	12
全国水路集計調書	13
全国水路調査	14

II. 個 別 編

調査表・写真・図面	223
-----------------	-----

III. 技 術 編

1. 概 論	339
2. 路線の選定	340
3. 開 水 路	345
4. パイプライン	360
5. トンネル	371
6. サイホン	380
7. 水 路 橋	391
8. 排 水 路	395
9. 水管理施設	401

解 説

I. 総 括 編

本編で対象とした水路は昭和21年以降、昭和56年4月までに系統的に新設又は改修された農業用排水を主目的とした水路で、その受益面積として上(下)流端で500ha以上を有し、下(上)流端でのそれが300ha以上を有する区間で水路を対象としてまとめあげたものである。

調査のとりまとめに当っては、農林水産省構造改善局調査「基幹水利資産賦存量調査」結果をもとに、構造改善局設計課を窓口として、各地方農政局、北海道開発局及び水資源開発公団の協力を得、内容の確認補正、追加、取捨選択を行い、質量とも正確を期し集大成したものであり、その調査規模として用水路482地区、総延長約13,200km、排水路335地区、総延長約4,300kmに及んでおり、農業用基幹水路としてはほぼ全数を対象にしたと判断している。

本編の構成としては、利用者の便を図るうえから、全国地区別調書から年度別水路種別延長調書及び計画最大流量別水路種別延長調書を作成し掲載した。

なお、欄中の記号はO：開水路(開渠)、C：暗渠、S：サイホン、T：トンネル、P：パイプライン、B：水路橋とした。

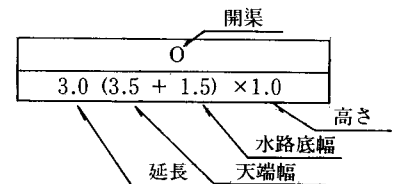
〔記載内容〕

番 号	地域ごとに事業完了年度(継続中を含む)の古い順にして、北海道からの通し番号とし、水資源開発公団の分を最後にまとめた。
県 名	水路の受益を有する県名(2県以上に受益がまたがるものについては併記)を記入した。
地区名	一般呼称ではなく、用水路では上流端取水部、排水路では下流吐出部の正式事業地区名を記入した。
事業名	該当する事業名を記入した。ただし事業が二つ以上になるものについては、事業量の多い上位2位までを記入し、それ以外は()書で記入した。
用排水区分	用水路の場合は「用水」排水路の場合は「排水」用排水兼用水路は「用排水」と記入した。
取(排)水源名	取水及び排水している水系河川名を記入した。2河川以上より取水・排水している場合は、それらすべて記入した。
受益面積	用水路では上流端取水部、排水路では下流吐出部での受益面積を記入した。 なお、上段には受益面積を記し、中段、下段にはその内数として地目を水田、畑に区分し記入した。 なお数値は、ha単位とし、小数点以下1位を四捨五入した。
受益戸数	事業採択時の受益戸数を記入した。
工事期間	建設工事期間を年を単位とし、元号にて記入した。
管理者	施設を直接管理している団体名(予定を含む)をすべて記入した。
水路総延長	「地区内各幹線水路」欄記載の水路に対応する総延長を下段に記入し、上段には下段の数値から「その他」を除く延長を()書きで記入した。 なお、数値はkm単位とし、小数点以下2位を四

捨五入した。

地区内各幹線水路

水路名	地区名の幹線水路名を呼称でなく正式名称にて記入し、支線水路は「その他」とした。
延長(km)	水路名に対応する水路延長を記入した。なお支線水路については、一括集計した総延長を記入した。 数値は、km単位とし小数点以下2位を四捨五入とした。
平均勾配	$\text{平均勾配} = \frac{\text{水路上流端標高} - \text{水路下流端標高}}{\text{延長}}$ とし 分数表示で記入した。なお分子は1、分母はおおむね十位を四捨五入とし記入した。
計画最大流量(m ³ /s)	水路の計画最大流量をm ³ /s単位とし、小数点以下3位を四捨五入し、記入した。
水路形式	各幹線水路・水路形式区分に従い、分割し記入した。 なお、記入方法としては次のとおりである。 例. 用水路(台形水路)の場合



なお、数値は、延長についてはkm単位、断面寸法はm単位とし、それぞれ小数点以下2位を四捨五入とした。

付帯施設	「地区内各幹線水路」に付帯する施設のうち、受益面積が50ha以上を有するものについて、その施設名称と数を記入した。
沿 革	その地区の社会・経済・自然条件及び事業等の特徴を記述した。

II. 個 別 編

本編は、総括編の水路及びそれに付帯する施設の中から、(1)比較的特殊な施工方法を採用しているもの。(2)形状に特徴のあるもの。(3)規模が大きいもの。(4)その他、の4点を対象として、北海道開発局、各地方農政局、水資源開発公団より抽出選択された283件の資料について、その設計・施工内容及び図面等を上記内容に照らし詳細な調査を実施し、内容不適切、資料不備等を除く62件について収録したものであり、その内訳は次のとおりである。

本編の構成については、各水路及び付帯施設についての各種諸元

工 種	数量	工 種	数量	工 種	数量
開 水 路	16	落差工(急流工)	5	沈 砂 池	1
暗 渠	3	分 水 工	7	水 管 理 シ ス テ ム	3
サ イ ホ ン	6	余 水 吐	3	ゲ ー ト	1
水路トンネル	4	放 水 工		除 塵 機	2
水 路 橋	8	調 整 池	3	計	62

表を一覧した調査表と各種図面、写真から構成されている。

なお各施設の記載内容は、次のとおりであるが、総括編と重複する項目については、極力省略した。

個別編番号 個別編の順番で番号を付し総括編に記載した番号を右肩に（ ）で記入した。

地形及び地質 施設付近の地形、地質、地盤等の概略条件が理解できる内容を記入した。

設計諸元 設計に当たり条件となった項目、数値等基礎的諸元を記入した。

〔記載例〕

計画最大流量 ○ m^3/s 、最大流速 ○ m/s …

地質玉石混砂礫 比重 ○、内部摩擦角 ○度 …

土被り ○ m ～○ m …… etc

設 計 設計に当たり条件となった事柄あるいは留意した点等を利用者に理解できるよう、なるべく詳しく記入し

た。

施 工 施工に当たり条件となった事柄、あるいは留意した点等を利用者に理解できるようなるべく詳しく記入した。

図 面 施設の構造図等を掲載し、規格寸法が十分理解できるようにした。

写 真 施設の完成写真を中心に掲載した。

III. 技 術 編

水路の計画、設計、施工及び管理方法についての技術的変遷を農業土木ハンドブック、農林水産省構造改善局制定「土地改良事業計画設計基準」及び、各技術雑誌、研究発表会・講演会等で報告された資料、工事誌、土地改良事業実施設計書等を参考としてまとめあげたものである。

I. 総 括 編

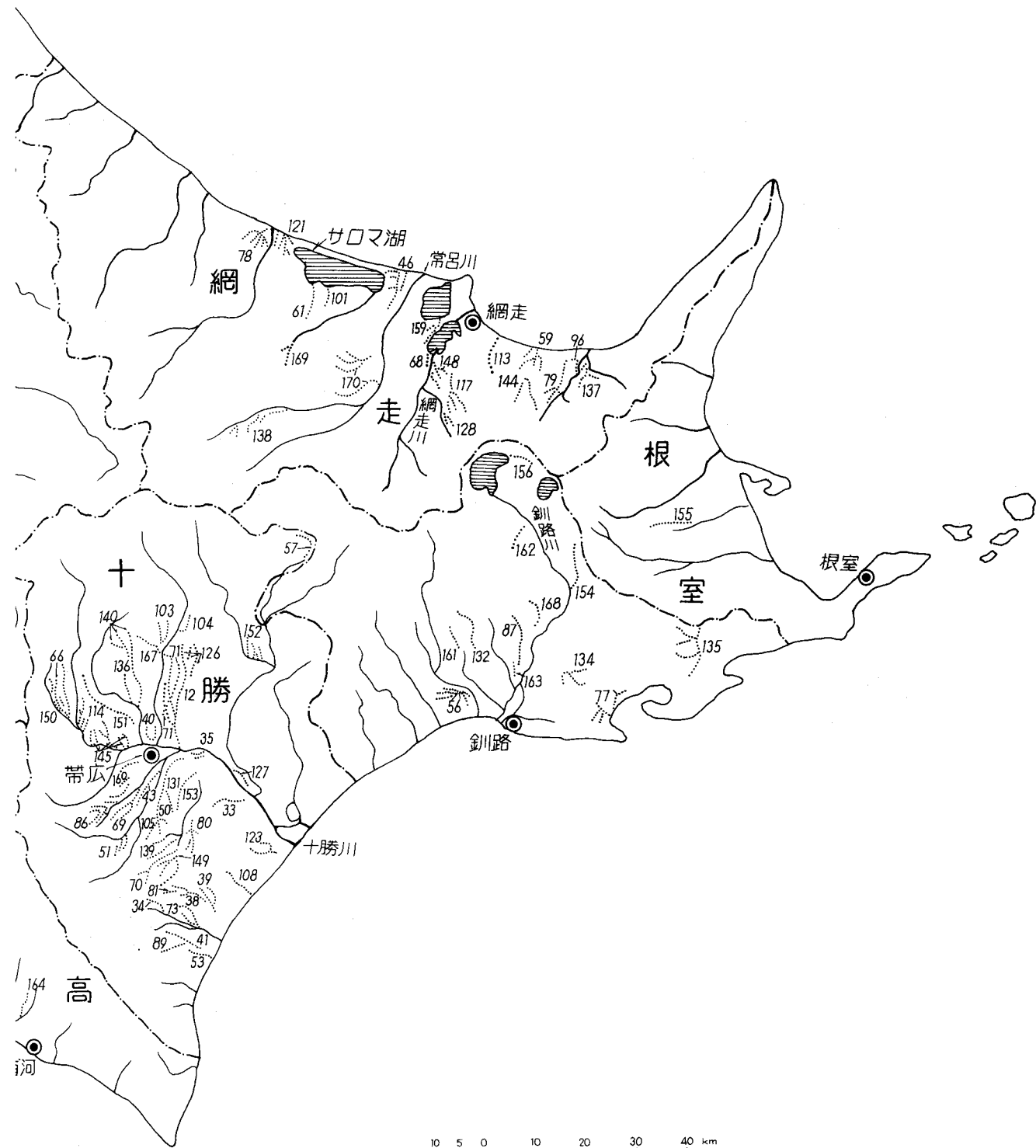
全国水路位置図	3
全国水路集計調書	13
全国水路調査	14

全国水路位置图

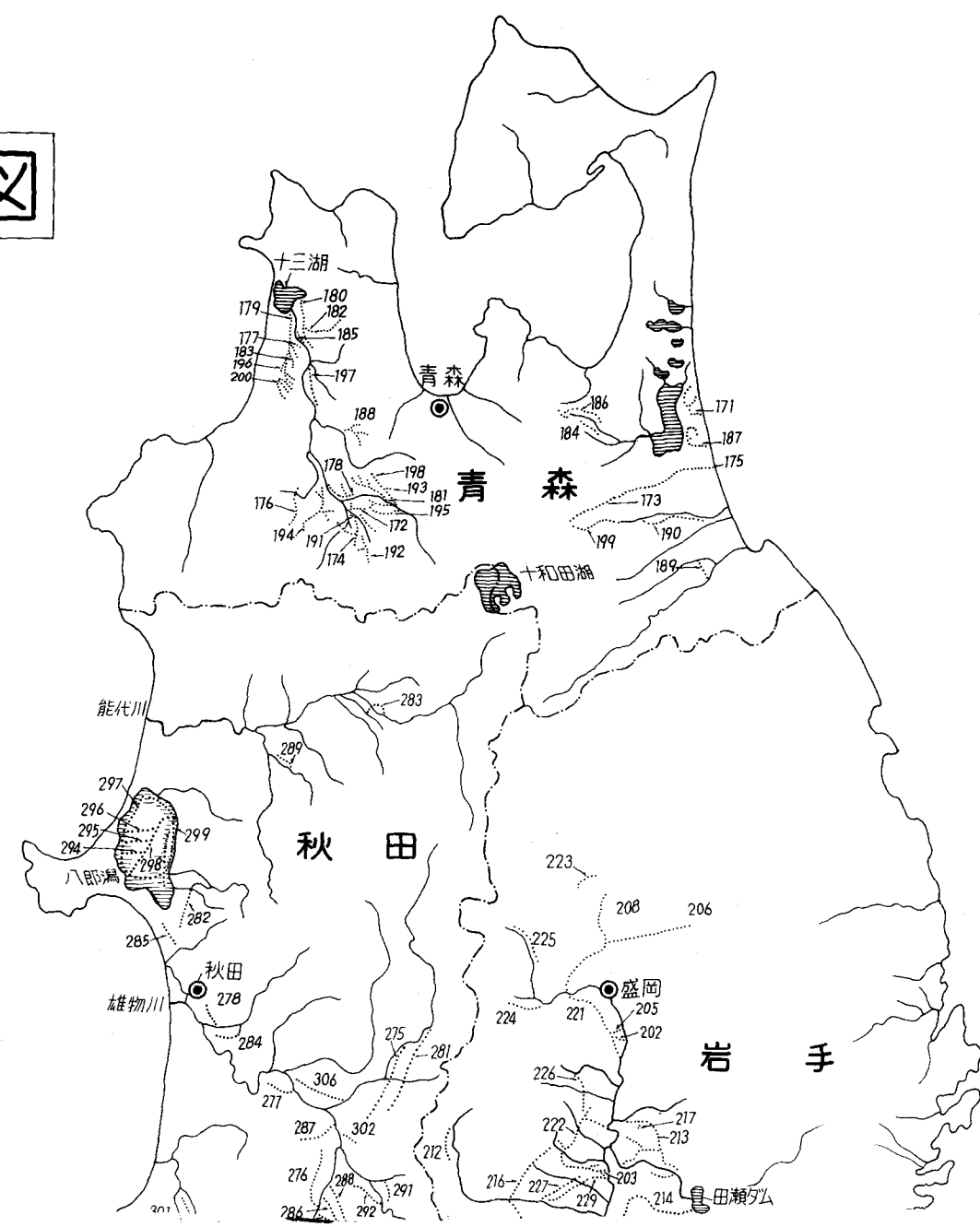
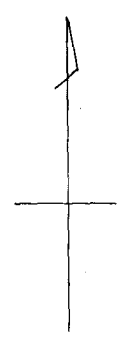
(1) 北海道	4
(2) 東北	6
(3) 関東・北陸・中部	8
(4) 近畿・中国・四国	10
(5) 九州	12

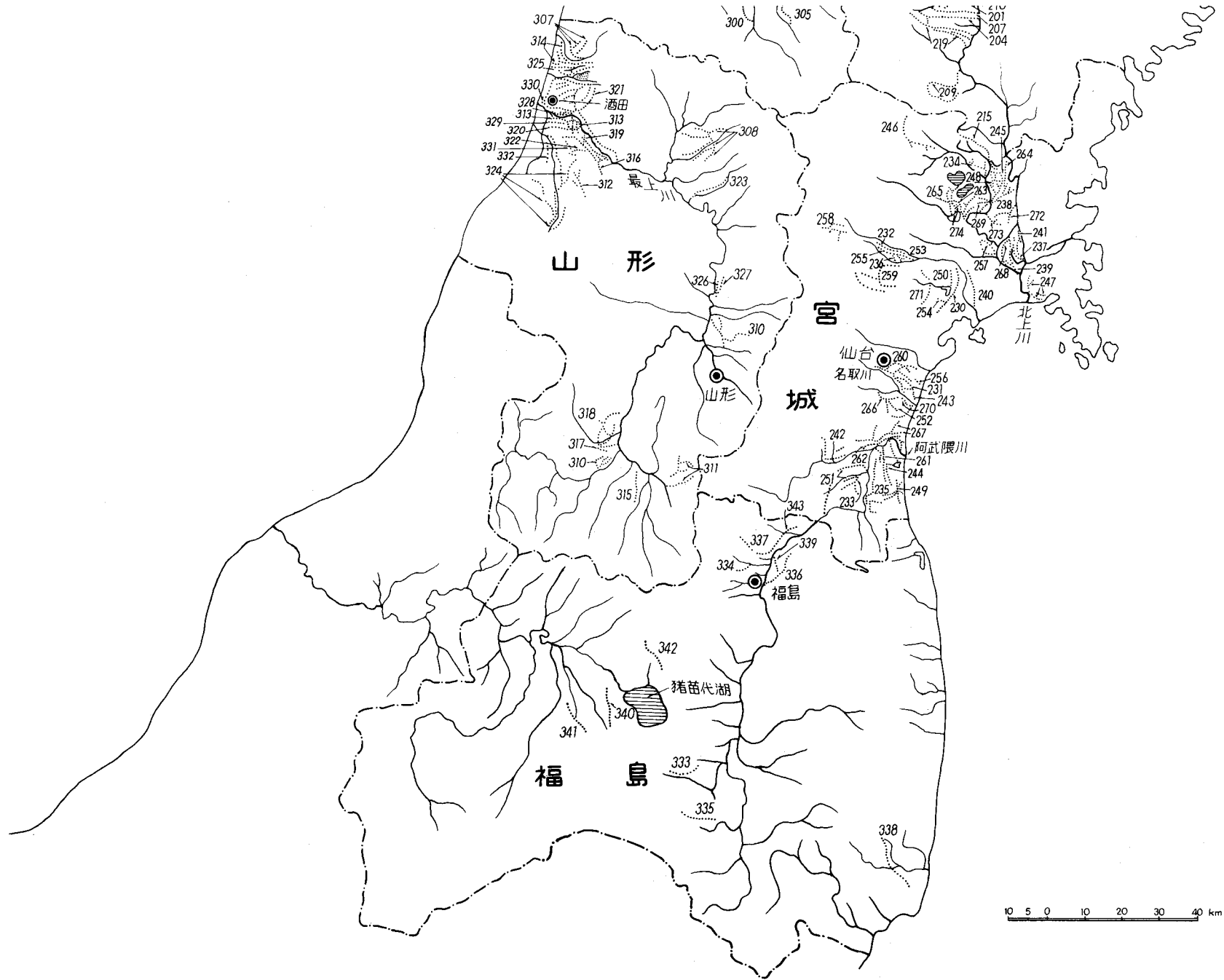


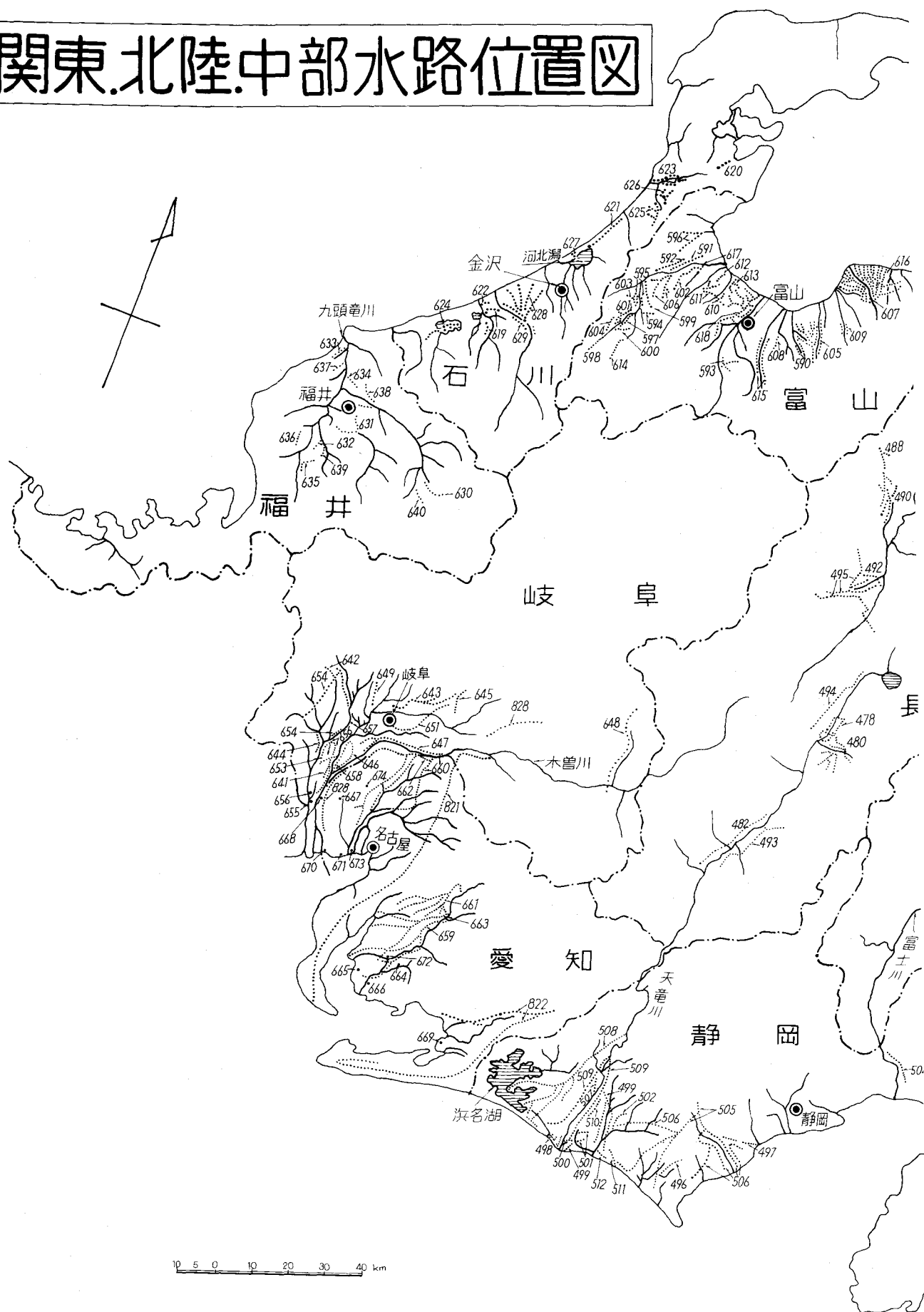
北海道水路位置図

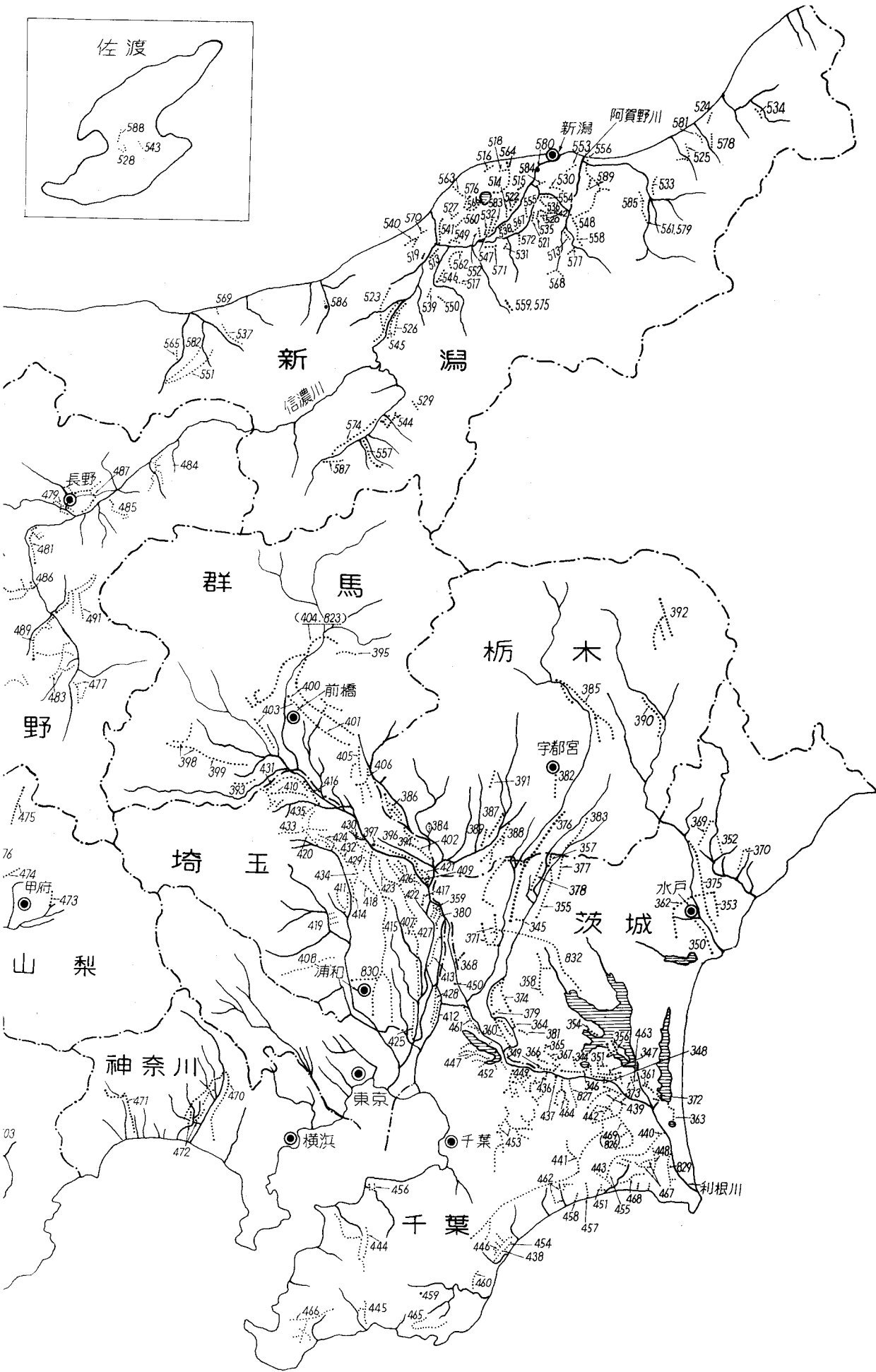


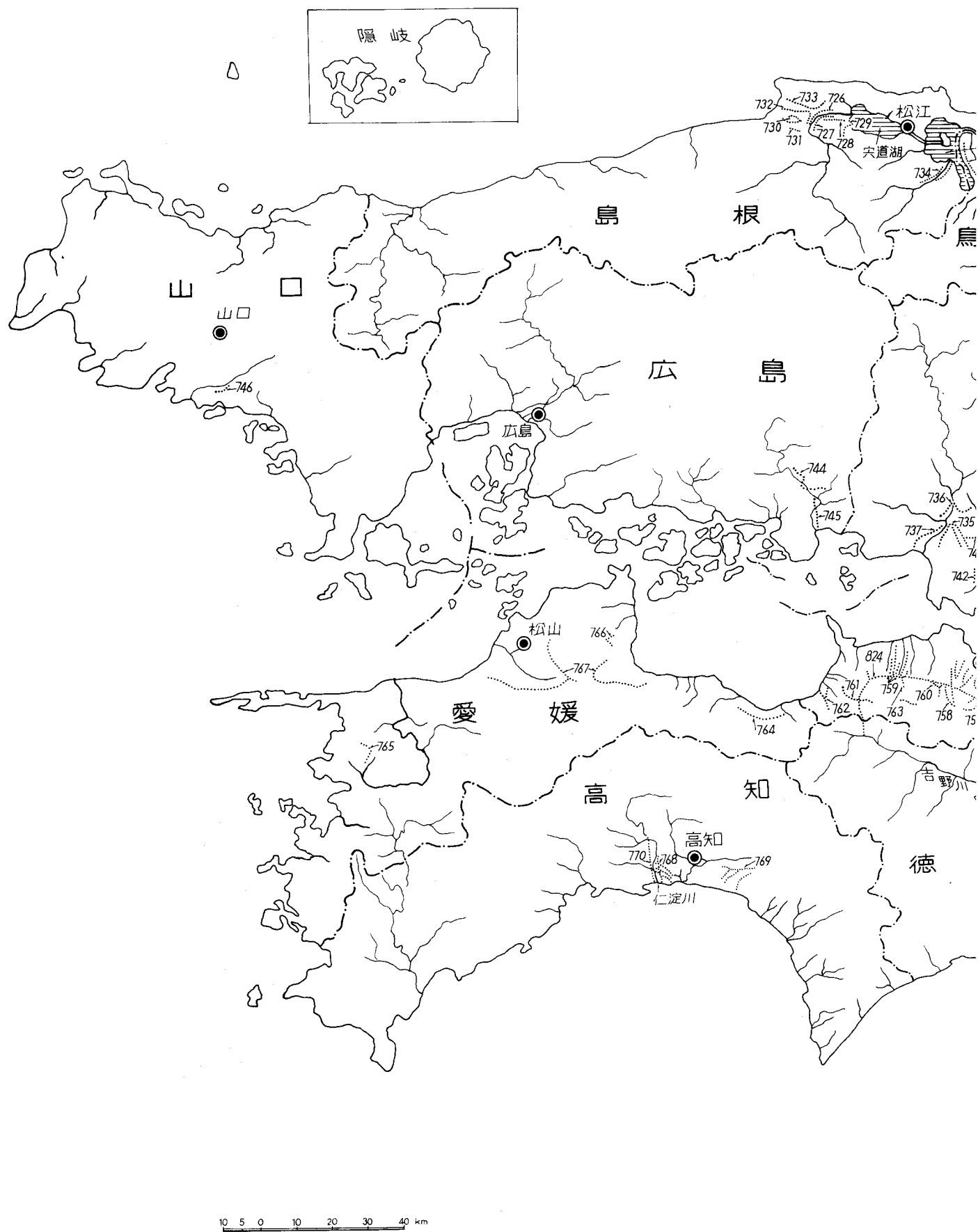
東北水路位置図



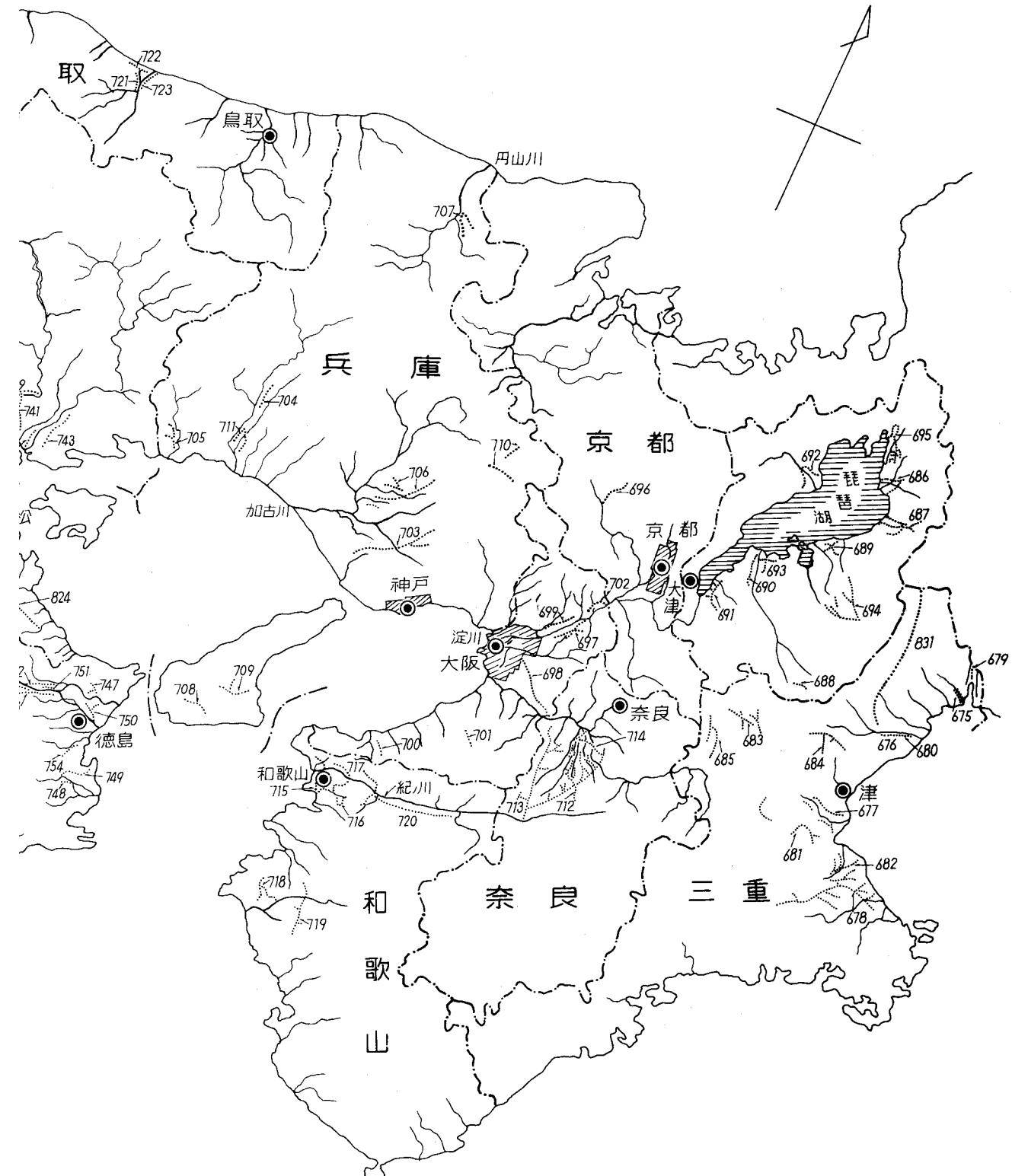




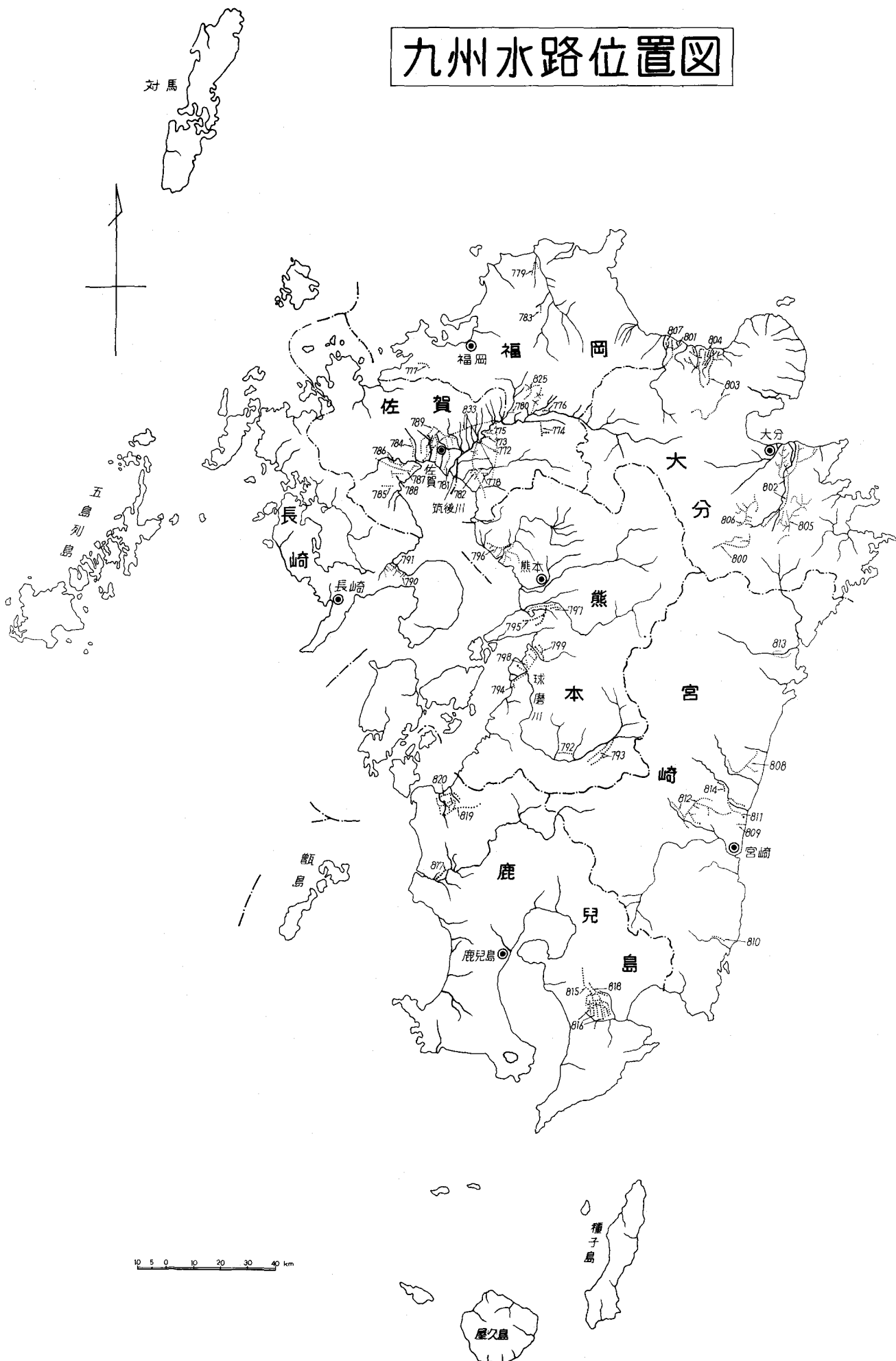




畿.中国.四国水路位置図



九州水路位置図



全 国 水 路 集 計 調 書

表-1 年度別水路種別延長調書（用水）

事業完了 年 度	完了地区数	水路総延長 (km)	水 路 総 延 長 内 訳 (km)							備 考
			O	C	S	T	P	B	その他	
S 25年まで	7	180.1	113.8	0	0	6.3	0	0	60.0	() の数字は水資源開発公団の施工
26～30	15	185.7	89.6	13.2	2.4	23.4	4.8	0.4	51.9	
31～35	34	892.8	322.1	9.1	6.2	31.1	56.5	0.1	467.7	
36～40	58	999.6	720.5	19.5	21.1	42.6	7.9	0.6	187.4	
	(1)	(195.6)	(67.6)	(3.6)	(12.4)	(28.3)	(0)	(0.2)	(83.5)	
41～45	143	3,291.4	1,783.0	70.7	109.2	279.8	259.8	3.4	785.5	[この行は水資源開発公団 41～50 年]
	(4)	(489.3)	(65.5)	(10.2)	(46.3)	(117.9)	(20.3)	(2.1)	(227.0)	
46～50	151	4,641.1	2,664.9	81.8	61.7	184.2	187.4	4.0	1,457.1	
51以降	74	3,007.1	1,210.7	83.2	155.3	224.1	541.1	3.7	789.0	
	(8)	(476.0)	(76.4)	(2.5)	(21.5)	(56.0)	(267.2)	(0.7)	(51.7)	
合 計	482	13,197.8	6,904.6	277.5	355.9	791.5	1,057.5	12.2	3,798.6	
	(13)	(1,160.9)	(209.5)	(16.3)	(80.2)	(202.2)	(287.5)	(3.0)	(362.2)	

表-2 年度別水路種別延長調書（排水）

事業完了 年 度	完了地区数	水路総延長 (km)	水 路 総 延 長 内 訳 (km)							備 考
			O	C	S	T	P	B	その他	
S 25年まで	2	5.6	4.6						1.0	
26～30	10	54.6	44.8	0.4					9.4	
31～35	22	314.4	234.9						79.5	
36～40	40	395.9	298.5						97.4	
41～45	90	1,225.9	932.4	1.3	0.3				291.9	
46～50	106	1,344.4	890.0	0.3			0.1		454.0	
51以降	65	978.9	884.7						94.2	
合 計	335	4,319.7	3,289.9	2.0	0.3	0	0.1	0	1,027.4	

表-3 計画最大流量別水路種別延長調書（用水）

区分 流量 m³/s	水 路 総 延 長 内 訳 (km)								備 考
	O	C	S	T	P	B	合 計		
1.0 未満	740.7 (0)	60.4 (0)	81.2 (0)	65.5 (0)	323.3 (27.0)	0.9 (0)	1,272.0 (27.0)		() 内の数字は水資源開発公団の施工
1.0～2.0	1,253.1 (0)	36.5 (0.3)	54.2 (0)	132.0 (6.0)	387.5 (60.3)	2.8(0.3)	1,866.1 (66.9)		
2.0～3.0	976.6 (0.6)	31.6 (0.1)	43.5 (0)	89.8 (0)	131.8 (32.5)	2.5 (0)	1,275.8 (33.2)		
3.0～5.0	1,307.5 (7.6)	43.8 (0.1)	48.6 (4.0)	122.6 (12.0)	111.2 (58.3)	1.2 (0)	1,634.9 (82.0)		
5.0～10.0	1,543.6 (31.9)	68.9 (9.5)	76.3(36.6)	194.7 (69.0)	82.8 (32.6)	3.4(1.7)	1,969.7 (181.3)		
10.0～15.0	369.0 (26.0)	8.5 (1.3)	29.1 (8.7)	82.1 (15.9)	6.2 (33.5)	1.1(0.6)	496.0 (86.0)		
15.0～20.0	201.1 (0)	8.9 (0.3)	6.6 (0.3)	30.2 (47.3)	28.4 (43.2)	0 (0.1)	275.2 (91.2)		
20.0～30.0	180.1 (38.0)	9.5 (0.9)	3.3(18.2)	38.4 (18.5)	2.9 (0)	0.1 (0)	234.3 (75.6)		
30.0～40.0	22.4 (68.6)	3.9 (3.7)	0.5(12.4)	13.0 (33.5)	0 (0)	0 (0.3)	39.3 (118.5)		
40.0 以上	158.2 (36.8)	1.4 (0.1)	1.7 (0)	5.3 (0)	4.4 (0)	0.5 (0)	171.5 (36.9)		
計	6,752.3(209.5)	273.4(16.3)	345.0(80.2)	773.6(202.2)	1,078.5(287.4)	12.5(3.0)	9,235.3 (798.6)		

表-4 計画最大流量別水路種別延長調書（排水）

区分 流量 m³/s	水 路 総 延 長 内 訳 (km)							備 考
	O	C	S	T	P	B	合 計	
1.0 未満	30.7						30.7	
1.0～2.0	127.0						127.0	
2.0～3.0	147.8				0.1		147.9	
3.0～5.0	267.6						267.6	
5.0～10.0	644.4	0.4	0.3				645.1	
10.0～15.0	522.9						522.9	
15.0～20.0	369.6	1.1					370.7	
20.0～30.0	296.2	0.3					296.5	
30.0～40.0	278.4						278.4	
40.0 以上	628.2	0.2					628.4	
計	3,312.8	2.0	0.3	0	0.1	0	3,315.2	

全 国 水

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水区分	取(排)水源名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益戸数 (戸)	工事期間	管理者	水路総延長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平均 勾 配	計画最大 流量 (m³/s)
1	北海道	多度志	直轄灌漑排水	用水	石狩川水系 多度志川	668 668	175	25～32	多度志 土地改良 区	(8.6) 8.6	湯 内 幹 線	3.0	1/800	1.3
											第 1 幹 線	5.6	1/300	0.8
2	"	北空知	"	"	石狩川水系 石狩川	8,577 8,577	2,907	25～35	深川土地 改良区 空知土地 改良区	(40.0) 100.4	深 川 導 水 路	0.4	1/300	17.5
											大 正 幹 線	11.1	1/1,000	17.5
											空知幹線導水路	0.9	1/1,000	22.8
											空 知 幹 線	26.9	1/4,100	22.3
											15 丁 目 幹 線	0.7	1/100	4.5
											そ の 他	60.4		
3	"	神 竜	"	"	石狩川水系 石狩川	3,253 3,253	889	27～37	神 竜 土地改良 区	(28.9) 34.4	神 竜 導 水 路	5.0	1/800	13.7
											中 央 幹 線	8.3	1/700	8.7
											南 幹 線	4.5	1/600	1.5
											北 幹 線	11.1	1/1,600	4.5
											そ の 他	5.5		
4	"	沼 田	"	"	石狩川水系 雨竜川	1,474 1,474	546	26～38	沼 田 土地改良 区	(12.3) 22.6	沼田第1幹線	8.8	1/3,200	3.1
											高 台 幹 線	3.5	1/400	0.8
											そ の 他	10.3		
5	"	羽 幌	"	"	築別川水系 築別川	764 764	176	28～41	羽 幌 土地改良 区	(10.1) 10.1	第 3 号 幹 線	5.3	1/1,600	1.6
											第 4 号 幹 線	4.8	1/2,800	0.5
6	"	新十津川	"	"	石狩川水系 徳富川ルー シュベツ川	3,809 3,809	1,201	27～42	新十津川 土地改良 区	(28.7) 30.2	徳富川導水路	0.9	1/1,800	6.9
											下徳富第1幹線	9.3	1/800	4.8
											道営下徳富幹線	2.4	1/300	1.8
											中 徳 富 幹 線	2.4	1/200	1.2
											上徳富第1幹線	7.5	1/1,000	2.1
											道営上徳富幹線	1.6	1/3,900	0.8
											西 徳 富 幹 線	4.6	1/300	1.0
											そ の 他	1.5		
7	"	秩父別	"	"	石狩川水系 雨 竜 川	3,704 3,704	973	26～43	秩父別土 地改良区 深川土 地改良区	(33.0) 43.5	第 1 幹 線	8.3	1/1,500	12.7
											桜 川 幹 線	3.1	1/600	1.6
											オ ー ホ 幹 線	0.2	1/1,000	0.6
											十 戸 幹 線	1.1	1/800	0.4
											第 3 幹 線	9.9	1/900	3.1
											第 2 幹 線	5.2	1/800	4.9
											中 央 幹 線	4.2	1/1,300	1.2
											千 秋 第 1 幹 線	0.6	1/3,000	1.1
											原 野 幹 線	0.4	1/2,000	0.5
											そ の 他	10.5		

路 調 査

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
3.0(3.5+1.5)×1.0						落差工等 9	水源は多度志川を主源とし24の井堰と自然取入れによっていたが、670 ha の用水確保が困難なため、多度志川上流の湯内に中心コンクリート止水の均一型アースフィルダムを築造した。また、昭和27～28年に道営灌排を実施した。
5.6(1.8+1.3)×0.8							
11.1(11.2+7.0) ×2.1	0.4, 2R×R1.7					分木工等 25 落差工等 12 余水吐等 1 揚水機等 4	石狩平野北部に位置し、石狩川を水源とし、右岸は取水堰、左岸は自然流入により取水する。石狩川は年々河床低下で取水困難のため、117カ所の揚水機を施設したが、源流の渇水量低下などのため、右岸の堰のかさ上げ、左岸取入口を移設し、兩岸の幹線用水路を舗装し上記揚水機を廃止した。
	0.4, 2.3×2.3～2連		0.5, 2R×R1.7				
14.5(9.1+6.6)×2.5 11.7(2.9+1.6)×1.3	0.7						
0.7(3.4+2.5)×1.3							
1.9(5.0+4.1)×1.8	0.5, 偏平総高	0.2	2.4, 1.8R×R1.8			調整池等 1 分木工等 11 落差工等 10 余水吐等 2 揚水機等 2	雨竜郡納内村を中心とする3,253 haで、昭和2年に石狩川に自然取入れの導水門を築造したが、その後、施設の老朽化に伴い、用水不足をきたしたので石狩川春志内に頭首工を設け、沈砂池、トンネルを新設した。大半は既設水路の改修である。また、昭和39～40年道営灌排を実施した。
8.3(7.3+6.2)×1.8							
4.5(2.5+1.8)×1.2							
8.7(5.3+4.5)×14.7 1.9(1.6+1.0)×1.0		0.5					
1.5(4.5+3.0)×2.5 6.9(6.0+3.0)×1.5	0.3	0.1				分木工等 2 落差工等 5 余水吐等 4 揚水機等 1	雨竜川右岸に位置する泥炭地で、古くからの穀倉地帯の一部である。鷹泊堰堤を水源とし、雨竜川に頭首工、幌新太刀別川、ポン川に固定堰を新築、さらに揚水機場を新設するほか、既設用水路の改修を行う。昭和39～40年道営灌排。
3.5(1.7+1.2)×0.9							
5.3(2.7+2.4)×1.0						分木工等 48 落差工等 5 揚水機等 1	道西北部に位置し、留萌地方では水稻栽培の適地であったが、水源の築別川が奥地の開発などで水不足が深刻化したため、用水確保のためのフィルダムの築造のほか、頭首工、揚水機、開水路等を整備した。昭和41～44年道営灌排。
4.8(2.0+0.8)×0.9							
0.9(5.8+4.3)×1.5	1.1					分木工等 14 落差工等 10 余水吐等 2 揚水機等 4	石狩川右岸と増毛連峰に囲まれ、徳富川ほか2河川が貫流する3,809 haの地域で、水田適地であったが、近年の開発に伴い、水不足になった。ルークシュベツ川にダムを造るほか井堰の統合、頭首工の新設、幹線用水路の改修等行なった。昭和41～44年道営灌排。
5.9(6.0+4.5)×1.5 2.3(3.0+1.9)×1.5							
2.4(2.9+2.4)×0.8							
2.4(2.1+1.1)×1.0							
7.2(3.5+2.3)×1.2		0.3, φ1,100					
1.6(2.2+1.6)×1.0							
1.6(2.0+1.5)×0.9 2.2(1.8+1.3)×0.8		0.8					
8.3(7.0+1.0)×3.0						分木工等 10 落差工等 11 余水吐等 3 バルブ等 4	雨竜川左岸に位置する3,704 haの地域で、北空知の穀倉地帯であったが、戦後の乱伐、雨竜川の無効放流等により用水不足をきたした。この対策として鷹泊ダムが造られたので、雨竜川に2カ所の頭首工を設けたほか幹線用水路を改修。
2.3(4.4+2.0)×1.3		0.8, φ400					
0.2, φ100×1/2							
1.1(9.6+6.0)×0.6							
9.9(3.2+2.3)×1.4							
5.2(5.4+4.5)×1.5							
4.2(3.2+1.2)×1.0							
0.6, U型1.2×1.2							
0.4, U型0.9×0.9							

番号	県名	地区名	事業名	用・排水区分	取(排)水源名	受益面積 水田畑 (ha)	受益戸数 (戸)	工事期間	管理者	水路総延長 (km)	地区			
											水路名	延長 (km)	平均配	計画最大流量 (m³/s)
8	北海道	大夕張	総合灌漑排水	用水	石狩川水系夕張川	12,126 12,126 —	3,831	28—43	北海道開発局 長沼土地改良区 由仁土地改良区 (外4)	(110.5) 132.2	由仁幹線	10.5	1/300	12.3
											岩内幹線	8.7	1/300	3.8
											中央幹線	3.2	1/500	1.7
											三川幹線	15.1	1/400	5.1
											栗山幹線	22.4	1/800	9.3
											角田幹線	6.6	1/200	4.0
											南学田幹線	4.6	1/100	1.3
											長沼幹線	13.2	1/1,100	11.9
											第7幹線	4.1	1/1,200	2.7
											栗沢幹線	12.8	1/2,200	6.9
											栗部幹線	1.4	1/500	0.7
											小西幹線	3.7	1/800	1.8
											幌向幹線	4.2	1/800	3.7
その他	21.7													
9	〃	恵岱別	直轄灌漑排水	用水	石狩川水系恵岱別川	2,268 2,268 —	566	28～43	北竜土地改良区	(22.8) 29.2	恵岱別幹線	8.2	1/100	0.9
											北竜幹線	9.3	1/1,100	4.6
											美葉牛幹線	1.8	1/150	0.7
											渭之津幹線	3.5	1/900	1.0
											その他	6.4		
10	〃	尾白利加	〃	〃	石狩川水系尾白利加川	3,257 3,257 —	1,039	28～42	雨竜土地改良区	(29.0) 30.5	尾白利加幹線	15.4	1/400	2.5
											雨竜幹線	3.0	1/200	5.5
											道営雨竜幹線	1.8	1/400	0.6
											第3幹線	2.0	1/100	0.9
											第1幹線	2.6	1/1,000	2.8
											道営第1幹線	1.3	1/1,000	1.2
											第2幹線	2.9	1/200	1.2
											その他	1.5		
11	〃	沙流	道営灌漑排水	〃	沙流川水系沙流川	915 915 —	340	31～43	沙流土地改良区	(15.7) 21.7	沙流幹線	15.7	1/900	5.9
											その他	6.0		
12	〃	中士幌	総合灌漑排水	〃	十勝川水系音更川	6,329 1,863 4,466	850	34～43	音更土地改良区	(27.3) 35.3	中士幌幹線	7.5	1/200	11.1
											第1幹線	15.0	1/200	8.0
											第2幹線	4.8	1/300	3.1
											その他	8.0		
13	〃	富良野	〃	〃	石狩川水系空知川	5,366 5,366 —	1,301	27～45	富良野平原土地改良区 扇山土地改良区 (外)	(28.9) 51.9	山手幹線	23.5	1/800	10.3
											西部第2幹線	1.1	1/400	2.0
											富良野揚水機幹線	4.3	1/500	1.3
											その他	23.0		

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革	
水 路 形 式								
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋			
9.6(1.5+0.9)×1.1			0.9, 2R×R2.0			分水工等 76 落差工等 57 揚水機等 9	夕張川一帯を占める水田地域であったが、戦後の開発で用水不足が著しくなった。二つのダムの新設、1ダムのかさ上げによって発電を行うとともに 5,500 ha の灌漑を行った。また夕張川に頭首工を新設して別に 6,000 ha を灌漑している。	
4.0(3.6+1.0)×1.3		0.2						
4.5(2.9+1.0)×1.0								
0.5, 1.5×1.2		0.1						
2.6(2.0+0.5)×0.8								
11.7(5.6+2.0)×1.8	0.7	0.4		2.2				
0.1, 1.4×1.4								
15.4, 3.5×2.0		3.4	1.9	1.6 φ700	0.1			
2.8, 2.3×1.2				2.3				
1.5, 1.6×1.7								
4.6(1.5+1.1)×0.7								
9.7(6.3+5.1)×2.1		0.5						
3.0, 1.1×0.9								
4.1, 1.9×1.3								
12.4(6.3+2.1)×1.4			0.2	0.2 φ800				
				1.4 φ1,200				
0.9(3.9+1.3)×1.3				0.6				
2.2(1.0+0.5)×0.9				4.2 φ1,650				
0.3(1.7+1.1)×1.0				3.0		分水工等 7 落差工等 37 余水吐等 8	北空知の一部で水田は雨竜、恵岱別両川沿いにあるが、奥地の開発によって水不足を招来した。恵岱別上流に土石堰堤を築造し、幹、支線用水路を整備した。昭和41～42年道営灌排を実施した。	
4.9, 0.6×0.7								
9.3(3.2+2.0)×1.3								
1.8(1.9+1.3)×1.0								
0.7(2.3+1.6)×1.1		0.2						
2.6, 1.1×1.0								
6.6(2.9+1.5)×1.4	0.4	0.2				分水工等 1 落差工等 30 余水吐等 2	雨竜川右岸の雨竜町と新十津川町の一部を含む比較的平坦な水田適地であったが、土地利用の急増に伴い干ばつ被害が多くなった。尾白利加川上流に傾斜コア式土石堰堤の新設とダム下流山沿いに幹線用水路を新設した。	
8.2, 1.2×1.0								
3.0(4.2+3.0)×1.2								
1.8(2.0+1.0)×1.0								
2.0(1.5+1.0)×0.9								
2.6(3.9+2.8)×1.1								
1.3(2.1+1.4)×1.2								
2.9(1.5+1.0)×0.9								
15.7, 7.0×1.3						分水工等 26 落差工等 7	明治2年から当初は畑作が主であったが、大正2年に土功組合が設立され、以後頭首工と幹支線水路が完成。施設が老朽化したので同31年道営かん排事業とし43年に完成。	
7.5(5.3+4.5)×1.4						分水工等 9 落差工等 60	十勝川北側にある音更町、士幌町にまたがる面積 6,329 ha の総合灌漑排水事業地区である。音更川に十勝頭首工を設置し、コンクリートまたはブロック開水路と排水路9条を施工。昭和42～45年道営灌排を実施した。	
15.0(4.2+3.0)×1.5								
4.8(4.5+3.0)×1.5								
20.1			0.7 偏平総高 1.6R×R1.5	2.7 φ1,000		分水工等 6 落差工等 4 揚水機等 1	道中央部、富良野盆地の中南部を占め、上富良野町、中富良野町、富良野市の3市町にまたがる3,500 ha 余の地域で、事業の特徴である冷水温対策として水温上昇ため池を設置した。	
				1.1 φ1,000				
				4.3 φ1,100				

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水区分	取(排)水源名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益戸数 (戸)	工事期間	管理者	水路総延長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平均 勾 配	計画最大流量 (m³/s)
14	北海道	鶴 川	直轄灌漑排水	用水	鶴川水系 鶴川	2,334 2,334 —	768	36~45	鶴 川 土地改良 区	(30.6) 33.6	川 東 幹 線	9.1	1/1,900	4.2
											川 東 北 幹 線	2.8	1/1,200	1.4
											川 東 南 幹 線	2.4	1/1,100	0.3
											生田揚水機幹線	2.8	1/900	1.0
											川 西 幹 線	7.9	1/2,300	6.9
											川 西 北 幹 線	1.8	1/1,400	3.0
											川 西 南 幹 線	3.8	1/2,400	3.8
											そ の 他	3.0		
15	〃	篠 津	泥炭地開発事業 (道営灌漑排水)	〃	石狩川水系 石狩川当別川	11,398 11,019 379	2,388	26~46	北海道 開発局 篠津中央 土地改良 区 当 別 土地改良 区 南美原 土地改良 区 (他2)	(83.7) 138.7	篠 津 運 河	22.9	1/13,500	28.4
											美原第1幹線	2.2	1/2,300	2.3
											美原第2幹線	0.9	1/600	2.7
											美原第3幹線	1.0	1/2,000	1.4
											川南第1幹線	8.9	1/1,000	11.1
											川南第2幹線	4.0	1/6,700	5.1
											篠 津 幹 線	1.9	1/3,800	2.0
											中 小 屋 幹 線	5.9	1/3,900	6.3
											高倉第1幹線	2.1	1/1,400	1.5
											高倉第2幹線	2.4	1/800	2.9
											月 形 幹 線	4.1	1/2,000	3.7
											南美原幹線	4.7	1/3,600	6.2
											当 別 幹 線	12.4	1/600	7.0
											川 下 幹 線	1.2	1/3,000	1.9
											太 美 幹 線	4.4	1/574	2.8
											東 裏 幹 線	2.2	1/1,400	0.9
											西 裏 幹 線	2.5	1/2,000	0.6
											そ の 他	55.0		
16	〃	厚 真	総合灌漑排水	〃	厚真川水系 厚真川	3,234 2,019 1,215	668	37~46	厚 真 土地改良 区	(16.1) 18.1	4 区用水幹線	1.9	1/1,000	0.4
											5 区用水幹線	1.6	1/200	0.7
											6 区用水幹線	7.3	1/900	3.6
											7 区用水幹線	2.1	1/500	1.2
											8 区用水幹線	2.5	1/1,100	0.6
											9 区用水幹線	0.7	1/600	2.1
											そ の 他	2.0		
17	〃	浦 臼	〃	〃	石狩川水系 石狩川	1,450 1,450 —	490	41~46	浦 臼 土地改良 区	(12.4) 15.5	浦 臼 幹 線	9.6	1/780	3.4
											道 営 幹 線	2.8	1/2,200	1.5
											そ の 他	3.1		

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
9 1(6.8+3.3)×1.3						分木工等 8 落差工等 4 余水吐等 1 揚水機等 1	鵜川の末流両岸に開けた丘陵低地帯で、大正初期に鵜川を主水源とした二つの井堰で稲作が行われたが、戦後は奥地の開発、砂利採取等によって取水困難のため、頭首工・揚水機各1ヵ所、幹線用水路4条で2,334 haに補水。
2.8(2.6+2.0)×0.5							
2.4(1.6+1.0)×1.1							
2.8(2.4+1.0)×1.0							
7.9(7.3+4.0)×1.6							
1.8(3.4+2.6)×1.4							
3.8(7.3+4.0)×1.6							
22.9 (94.7+14.7)×10.0						分木工等 13 落差工等 11 揚水機等 10	石狩平野西南部に位置し、昭和26年に石狩川水域総合開発事業計画の一環として始まり、同31年に世界銀行の融資を受け、開田が行われた。事業は篠津運河、青山ダム、2ヶ所の頭首工の新設、7揚水機場、多数の幹線用排水路の新設改修等である。
2.0(4.4+1.0)×1.4				0.2 φ1,800			
0.3(7.3+2.8)×1.5				0.6 φ1,800			
				1.0 φ1,200			
8.9(8.2+4.2)×2.0							
1.2(10.0+4.0)×2.0				2.8 φ1,800			
				1.9 φ1,600			
5.9(7.1+2.4)×2.0							
2.1(3.0+1.0)×1.2							
2.4(3.3+1.9)×1.6							
4.1(7.0+2.5)×1.5							
4.7(9.4+5.0)×1.7							
11.4(6.0+4.1)×1.9				1.0 φ1,800			
1.2(5.5+1.0)×1.5							
4.4(6.0+1.2)×1.6							
2.2(2.0+1.5)×0.9							
2.5(1.6+1.1)×0.9							
1.9(1.8+1.3)×0.8						分木工等 1 落差工等 5 揚水機等 3	明治3年に開拓を始め、大正6年に当麻土功組合を設立、排水と造田が進められた。戦後、施設の老朽化、水不足のため、昭和37年に国営事業が着工された。厚真川上流にダムを、下流に2頭首工、揚水機場、幹線水路等である。
1.6(1.5+1.0)×0.8							
7.3(3.4+2.6)×1.4							
2.1(3.7+1.6)×1.0							
1.8(2.0+0.8)×0.9		0.7 φ900					
0.5, 2.3×1.3				0.2 φ1,200			
9.1(2.5+1.3)×1.3	0.5, 2.8×1.6					分木工等 21 余水吐等 3 揚水機等 2 バルブ等 2	石狩川中流右岸に位置する中空知の穀倉地帯で、用水源は溪流と石狩川跡の沼であるが、溪流は不安定で、沼を埋没し、干ばつ年は水不足に悩んだ。水源を空知川金山ダムに求め、二つの揚水機場の新設と幹線水路が主要工事。
2.8(2.5+1.3)×1.3							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水区分	取(排)水源名	受益面積 水 田 (ha)	受益戸数 (戸)	工事期間	管理者	水路総延長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平均 勾 配	計画最大 流量 (m³/s)
18	北海道	十勝岳	直轄灌漑排水	用水	石狩川水系 ピリカ富良 野川	1,304 1,304 —	465	40~48	草 分 土地改良 区 東 中 土地改良 区 富良野平 原土地改 良区	(14.5) 14.5	日 新 幹 線	7.0	1/100	1.8
											中 の 沢 幹 線	3.8	1/100	0.2
											西 幹 線	1.8	1/100	1.2
											東 幹 線	0.8	1/500	0.7
											草分第1幹線の2	1.1	1/100	0.4
19	"	美瑛川	"	"	石狩川水系 辺別川	2,106 1,869 237	1,027	37~49	美瑛川 土地改良 区連合	(23.8) 23.8	置 杵 牛 幹 線	7.1	1/100	3.0
											貯 水 池 幹 線	3.2	1/500	3.2
											高 台 幹 線	9.1	1/1,200	1.5
											俵 真 布 幹 線	3.4	1/100	0.7
											朗 根 内 幹 線	1.0	1/100	0.6
20	"	幌 新	"	"	石狩川水系 幌新太刀別 川	1,572 992 580	259	40~50	沼 田 土地改良 区	(8.2) 8.2	幌 新 幹 線	8.2	1/1,200	2.1
21	"	南月形	"	"	石狩川水系 須部都川	1,120 720 400	242	40~51	月 形 土地改良 区	(5.3) 5.3	中 野 幹 線	2.8	1/600	2.1
											月 ケ 岡 幹 線	1.5	1/200	0.4
											南 耕 地 幹 線	1.0	1/100	0.9
22	"	遠 別	"	"	遠別川水系 遠別川	550 550 —	121	45~51	遠 別 土地改良 区	(12.9) 12.9	第 2 幹 線	7.4	1/400	0.9
											第 1 幹 線	5.5	1/900	1.1
23	"	幌加内	"	"	石狩川水系 雨竜川	2,141 2,141 —	440	40~53	幌加内 土地改良 区	(23.3) 26.4	幌 加 内 幹 線	8.8	1/2,900	2.3
											雨 煙 内 幹 線	12.5	1/1,000	2.2
											雨煙内第1幹線	2.0	1/600	0.9
											そ の 他	3.1		
24	"	羽幌二股	"	"	羽幌川水系 羽幌川	1,298 1,298 —	276	44~53	羽 幌 土地改良 区	(3.7) 10.5	羽 幌 幹 線	3.7	1/1,100	3.7
											そ の 他	6.8		
25	"	美 唄	総合灌漑排水	"	石狩川水系 空知川	19,960 19,960 —	3,605	33~54	北 海 土地改良 区 岩見沢 土地改良 区 金 子 土地改良 区	(191.3) 239.3	北 海 幹 線	76.8	1/2,800	42.5
											由 良 幹 線	1.5	1/2,000	0.8
											志 文 幹 線	3.8	1/900	1.4
											金 子 幹 線	4.0	1/800	1.1
											岩 見 沢 幹 線	14.7	1/3,600	5.2
											岩見沢南幹線	4.1	1/2,400	1.1
											市 来 知 幹 線	7.6	1/500	6.6
											大 願 幹 線	7.6	1/500	5.1
											光 珠 内 幹 線	3.0	1/270	2.7
											光珠内甲幹線	2.2	1/1,200	1.4
											光珠内乙幹線	3.5	1/400	1.2
											沼 貝 南 幹 線	2.0	1/500	0.8
											沼 貝 幹 線	13.0	1/800	7.2

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革		
水 路 形 式									
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋				
2.9				4.1 2.0×1.0 3.8 φ400 1.8 φ900 0.8 φ700		分水工等 29 落差工等 10	富良野川本支流を水源とする水田地帯であるが、水質が強酸性で水量も不足で低位生産地であり、水質改善と用水補給を主目的とした貯水池、用水路を新設して、水利系統を改善。		
1.1(1.1+0.7)×0.7									
4.8(2.6+1.1)×1.5		0.5	0.4 2R×R0.9	1.4				分水工等 8 落差工等 7	上川盆地南部に位置し、道内屈指の米どころであるが、戦前戦後を通じ、森林の乱伐などにより河川源流が枯れ、用水不足が著しい。美瑛町にアースダムを設け、頭首工、用水路を整備。
0.3(3.0+1.5)×1.5		1.7 φ1,500	1.2						
3.1(2.0+1.4)×1.1		4.6 φ1,500	1.4						
3.4(2.0+1.2)×0.8									
1.0(2.6+1.2)×0.9									
5.1, 2.3×1.2 0.5, 2.5×0.9		0.8		1.8		分水工等 2 余水吐等 9 揚水機等 1	雨竜川水系の沼田町と北竜町にまたがる地域で、昭和40年ごろ、ため池とポンプで約1,000haの水田を灌漑。幌新太刀別川支線にアースダムを新設し、水田用水確保と畑地灌漑を実施。		
0.8	0.2 2.2×1.3	0.5		1.3 φ1,350 1.5 φ700 1.0 φ900		調整池等 2 分水工等 3 余水吐等 2 揚水機等 1	石狩支線須部都川兩岸にわたる1,120haで、従来の頭首工は老朽施設を廃止して、須部都上流にフィルダムを新設、中野頭首工、幹線用水路、揚水機場等を設け、旧田の用水確保のほか、開田720ha、畑地400haを企図。		
7.4(4.3+1.9)×1.2						—	留萌支庁管内の稲作北限地で、大正11年から稲作が、近年は酪農も行われている。昭和30年に道営で頭首工が設けられたが、同45年度から区画整理、灌漑、暗渠などを総合的に整備し、51年度に完了。		
5.5(2.6+2.1)×1.0									
6.8, 2.0×1.4	0.6, 1.8×1.2	0.5	0.9			分水工等 2 余水吐等 6	雨竜川上流、幌加内町に属する2,140haで、旧雨煙別導水門が老朽化のため、これを廃止し頭首工、幌加内幹線等を新設し、末端で雨煙内ダム、水系と合流させて、水利利用の合理化を図った。		
7.6	1.9	3.0 φ450							
2.0(2.5+1.5)×1.0									
3.5, 2.2×1.2	0.2, 2.2×1.5					分水工等 2 落差工等 1 余水吐等 2	留萌支庁管内の中央部に位置する稲作地であるが、戦後の水利用の増加、奥地林の過伐等により用水不足と施設が老朽した。頭首工の統合新設、デトニ股川にフィルダムの築造、用水路の整備等で、昭和53年度に完了。		
69.5, 13.0×2.6 4.4, 2.5×1.3 0.1(2.3+0.8)×1.0 1.0(2.4+0.8)×1.0 3.8(2.9+1.5)×0.7	0.9	1.3 0.4	0.3		0.4				
3.4, 1.4×1.2				0.6 φ1,100		分水工等 89 落差工等 53 余水吐等 22 揚水機等 15 バルブ等 1	石狩川中流左岸約19,960haの広大な平野で、昭和26年以降系統的に排水事業が進み42年には効果が現われたが、新規開田に伴い用水不足が著しくなった。桂沢、金山ダムの築造、北海頭首工ほか2頭首工の新設改良、多数の用水幹線、3ヵ所の揚水が主要工事。		
5.2, 3.0×1.1 9.3, 0.9×0.6		0.2							
4.1(2.6+1.6)×0.7									
2.2, 3.5×1.8 4.3, 3.2×1.9	0.5	0.1	0.4		0.1				
4.3				0.3φ1,500 3.0φ1,200 0.2φ1,350 2.7φ1,100 0.8φ1,100 1.3φ1,100					
2.0(1.9+1.3)×1.0				1.5 φ600					
2.0(2.6+1.5)×0.8									
3.2(4.8+2.5)×1.7 9.7(1.9+1.3)×1.0		0.1							

番 号	県 名	地区名	事 業 名	用・ 排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 勾 配	計画最 大流量 (m³/s)
25	北海道										沼 貝 乙 幹 線	2.1	1/700	2.5
											晩 生 内 幹 線	1.6	1/300	1.1
											茶 志 内 幹 線	3.8	1/300	2.3
											茶 志 内 南 幹 線	1.3	1/600	1.2
											茶志内開発幹線	1.2	1/300	1.2
											旧茶志内幹線	0.7	1/400	0.7
											茶 志 内 乙 幹 線	1.2	1/100	0.7
											茶志内3号幹線	2.6	1/200	1.1
											茶志内北幹線	0.3	1/1,500	0.5
											奈井江南幹線	0.4	1/700	0.6
											奈 井 江 幹 線	1.6	1/200	0.5
											川 向 幹 線	9.8	1/1,100	11.4
											川向第1幹線	7.1	1/800	3.8
											川向第2幹線	5.2	1/800	2.6
											川向第3幹線	5.9	1/1,400	2.5
26	〃	山 部	総合灌漑排水	用水	石狩川水系 空知川	2,986 2,986 —	612	40~54	空知川上 流土地改 良区	(22.4) 24.0	山 部 幹 線	19.1	1/1,800	5.6
											五区幹線用水路	3.3	1/200	0.25
											そ の 他	1.6		
27	〃	当 麻 山	直轄灌漑排水	〃	石狩川水系 石狩川	3,914 3,914 —	1,501	43~54	大雪山 土地改良 区連合 当 麻 土地改良 区 永 山 土地改良 区	(18.4) 38.3	導 水 幹 線	7.7	1/200	16.9
											永 山 幹 線	4.8	1/300	5.8
											当 麻 幹 線	2.3	1/900	9.1
											永山幹線第1幹線	2.9	1/400	1.2
											伊香保導水路	0.7	1/1,200	0.7
											そ の 他	19.9		
28	〃	大 野	総合灌漑排水	〃	大野川水系 大野川	2,991 2,991 —	1,737	33~53	渡島平野 土地改良 区	(35.1) 43.0	大 沼 導 水 路	2.6	1/600	13.6
											大 沼 放 水 路	1.1	1/2,000	13.6
											中 央 幹 線	7.1	1/600	2.6
											七 飯 幹 線	7.9	1/900	1.8
											追 分 幹 線	1.2	1/100	0.7
											一 本 木 幹 線	3.2	1/900	1.5
											七飯山沿幹線	8.1	1/100	0.4
											大 野 幹 線	3.9	1/100	2.5
											そ の 他	7.9		
29	〃	北 檜 山 左 岸	直轄灌漑排水	〃	後志利別川 水系 後志利別川	1,867 1,459 408	395	41~55	今 金 土地改良 区	(33.0) 33.0	第 1 幹 線	13.2	1/900	3.9
											第 2 幹 線	16.6	1/2,100	2.2
											道営第2幹線	1.8	1/700	1.5
											道営第1幹線	1.4	1/700	0.6

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
2.1, 2.5×1.4							
0.5(1.7+1.1)×1.0		0.1					
1.0, 1.3×1.0							
3.0, 1.4×0.9		0.6					
0.2, 1.4×1.0							
1.3(2.5+1.2)×0.7							
1.2, 1.4×0.8							
0.7(2.1+1.2)×0.7							
0.5(2.5+0.9)×0.8		0.2					
0.5(2.0+0.4)×0.8							
2.6(2.3+1.8)×0.8							
0.3(2.1+1.0)×0.8							
0.4(1.5+0.7)×0.6							
1.6(1.9+1.0)×0.7							
6.6(5.2+4.0)×2.6		0.3					
2.9(1.3+0.7)×1.0							
2.8(2.4+1.7)×1.4				2.4			
1.9, 1.4×1.1							
1.2, 1.7×1.2				3.6			
0.4(1.5+0.9)×1.0							
0.3(2.8+1.4)×2.4				5.6			
0.7, 1.6×1.5				φ1,600			
1.0(1.8+0.6)×0.6				1.0			
12.9(3.4+2.3)×1.8		1.6	2.6		0.1	調整池等 3	空知川左岸南北に細長く、下金山、山部町、富良野市の一部からなる地域である。畑作を水田に転換するため、空知川下流金山地点に頭首工を設け、地区西方高位部に用水路を配置した。
1.9(2.9+2.2)×1.1				3.3		分水工等 24	
				φ600			
7.6, 7.0×1.8		0.1				分水工等 17	上川盆地の中心で石狩川左岸に広がる平坦な水田地帯であるが、明治末期に建設された水利施設の老朽が甚だしい。旧当麻取入口に新頭首工を新設し、用水路の整備を行い、機械化営農の基盤を造成した。
2.9(3.2+2.5)×1.1		φ2,200		1.9		落差工等 38	
2.3(3.7+2.7)×1.6				φ1,800		バルブ等 10	
2.2(1.9+1.5)×0.8				0.7			
				φ900			
				0.7			
				φ1,100			
			2.6, 2R×R1.35			分水工等 20	道南端渡島平野の大半を占める函館市ほか3町からなる地域である。事業の特徴は姫川の水を大沼湖に増量し、大沼湖の流水を渡島平野に流域変更して、地区内利用可能水量と合せて水源の増強を図るとともに用排水路の改善である。
1.1(5.6+3.7)×3.1						落差工等 42	
5.7(3.2+1.9)×1.3	1.4, φ800					余水吐等 39	
6.4	1.3, φ1,350					揚水機等 3	
	0.2, 1.0×0.8					バルブ等 8	
1.2(2.7+0.9)×0.9							
3.2(2.4+1.8)×1.1							
				8.1			
				φ500			
3.6, 1.0×0.6	0.3, φ1,100						
7.3, 2.6×1.8		0.4	0.9	2.0		分水工等 3	渡島半島の北部日本海に面した2町にまたがる稲作地帯で、明治17年ころから開拓農民が集団入植以来、水田と酪農が盛んである。旧田と開田の補水と牧草畑の灌漑並びに低湿地の排水改良を行った。
2.6(2.4+1.6)×1.3						落差工等 4	
10.2(3.2+2.5)×1.2			0.2	6.2		余水吐等 4	
				φ600			
1.8(2.2+1.7)×0.9							
1.4(1.8+1.2)×1.0							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 配	計画最 大流量 (m³/s)
30	北海道	天塩川 上 流	総合灌漑排水	用水	天塩川水系 天塩川	11,657 11,657 —	3,605	42~57	天塩川土 地改良区 士別川土 地改良区 士別土地 改良区 剣淵土地 改良区 和寒土地 改良区 上士別土 地改良区	(128.8) 165.0	南登和里幹線	3.2	1/200	1.0
											東 士 別 幹 線	2.9	1/200	1.8
											道営東士別幹線	7.1	1/500	1.4
											士 別 川 幹 線	16.1	1/400	8.0
											士別川道営第1 幹線	3.0	1/600	0.8
											士別川道営第3 幹線	3.1	1/2,100	1.4
											中士別第3幹線	1.3	1/100	0.4
											中士別第2幹線	2.8	1/500	0.6
											中士別第1幹線	4.3	1/200	0.8
											士別川第2幹線	5.1	1/300	1.1
											剣 和 幹 線	36.8	1/1,100	14.1
											桜 岡 幹 線	4.9	1/2,600	1.1
											天塩川第1幹線	18.2	1/600	8.9
											下 士 別 幹 線	1.6	1/4,000	2.6
											下士別第1幹線	2.0	1/4,000	0.8
											下士別第2幹線	2.6	1/400	1.6
											士 別 第 1 幹 線	2.0	1/600	0.8
											天塩川第2幹線	6.4	1/1,200	4.0
											名 寄 幹 線	4.5	1/3,200	0.6
											和寒第1幹線	0.9	1/2,000	2.5
											そ の 他	36.2		
31	"	双 葉	直轄灌漑排水	"	尻別川水系 尻別川	4,934 3,609 1,325	1,462	43~58	倶知安土 地改良区 共和土地 改良区 京極土地 改良区 喜茂別土 地改良区	(9.3) 9.3	ペーペナイ1導 水路第2号トン ネル	0.1	1/500	3.0
											倶 知 安 幹 線	4.3	1/5,000	6.0
											発足幹線用水路	4.9	1/1,500	3.3
32	"	ベベルイ	直轄明渠排水	"	石狩川水系 ベベルイ川	1,625 1,625 —	530	19~26	富良野平 原土地改 良区	(8.2) 8.2	ベベルイ幹線排 水路	8.2	1/1,000	40.3
33	"	農野牛	"	"	十勝川水系 十 勝 川	890 48 842	77	17~29	豊頃町	(8.0) 8.0	幹 線 排 水 路	8.0	1/400	28.0
34	"	大 樹	"	"	歴舟川水系 歴 舟 川	1,088 — 1,088	86	26~30	大樹町	(4.2) 4.2	幹 線 排 水 路	4.2	1/100	9.4
35	"	咎 別	"	"	十勝川水系 十 勝 川	577 — 577	102	27~30	幕別町	(4.8) 4.8	南3線幹線排水 路	2.6	1/700	2.7
											南5線幹線排水 路	2.2	1/700	2.3
36	"	南川口	"	"	天塩川水系 天 塩 川	541 — 541	55	28~31	天塩町	(4.4) 4.4	エンタカ川幹線 排水路	4.4	1/1,000	10.2

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
0.7				1.2φ1100 1.3 φ900		分水工等 25 落差工等 67 余水吐等 4	道中央部の土別、和寒、剣淵の盆地内に属する水田地帯で、用水は岩尾内ダムの建設によって確保されたが、これと合せて旧来の老朽化した各水利施設を改修新設し、大規模水田地帯に対応できる基盤整備を行った。
2.6(2.7+2.1)×1.0 0.2(2.1+1.5)×1.0 5.0(2.0+1.2)×1.3 1.9(1.6+1.0)×1.0		0.1					
0.5(5.4+4.5)×1.5 15.5(2.6+1.9)×1.2 0.3(1.8+1.2)×1.0 0.9(1.7+1.2)×0.8		0.1	0.2				
3.1(1.8+1.2)×1.0				1.8			
1.3(1.3+0.9)×0.7							
2.8(1.5+1.0)×0.9							
1.7(1.5+1.0)×0.9 2.5(1.4+0.9)×0.8		0.1					
4.7(1.9+1.3)×1.0 0.3(1.4+0.9)×0.8		0.1					
19.5, 5.3×1.9	1.5	10.0	5.8, 2R×R1.6				
4.9(2.1+1.5)×1.0							
13.3(6.2+5.3)×1.5 4.2(3.9+2.5)×1.5		0.6			0.1		
1.6(4.9+4.2)×1.1							
2.0(2.2+1.6)×1.0							
2.6(2.1+0.2)×0.9							
1.2(2.4+1.5)×0.6	0.8 (3.2+2.0)×0.8						
4.8(4.0+3.1)×1.6		1.6 φ1,500					
4.5(2.2+1.7)×0.9							
0.9(2.8+2.2)×1.1							
			0.1, 2R×R0.9			落差工等 1 余水吐等 2 バルブ等 2	後志支庁管内の中央部に位置する喜茂別町ほか3町を含む稲作地帯で、明治初期に水稻が試作され、大正期にはかなり土地改良事業も行われたが、以後永く改良はされていない。用水の確保と老朽化水利施設の改修。
4.1(5.2+4.3)×1.5 3.9(4.1+3.5)×1.0	0.2	0.2 φ2,200 0.8 φ1,000					
8.2(14.6+10.0)×2.3						—	道中央部富良野盆地の東部に位置する湿田地帯で幹線排水路の河床を下げ、排水路の整備を図る。
8.0(11.1+6.0)×1.7						落差工等 8	帯広市の南東 23 km 豊頃町に位置する幅 600m 長さ約 10 km の細長い畑作地帯で、流域のノヤウン川が未改修で蛇行した原始河川のため、降雨のたびに浸水被害が大きいため基幹排水路の整備をした。
4.2(4.7+2.5)×1.1						落差工等 14	帯広市の南方 40 km に位置する畑地帯で、歴舟川の支流尻無川の流域で、幹線排水路の尻無川は急勾配で蛇行し、通水断面が狭小で河床が高いため幹線排水路と排水路網を整備した。
2.6(3.7+1.5)×1.1 2.2(3.4+1.2)×1.1						バルブ等 1	帯広市東方に隣接する幕別町に属し、明治34年開拓によって開かれた畑地帯で、十勝川、新田途別川、猿別川に囲まれ排水路が不備で一部に湛水も見られ湿害を受けるので、排水路を整備した。
4.4(12.8+9.0)×1.3						—	天塩川河口付近に開け、牧草作が適し酪農を専業とする地域で、幹線排水路のコイトイ川は土砂堆積、泥炭の浮上り等で排水機能が減退したので改修した。

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 勾 配	計画最大 流量 (m³/s)
37	北海道	江 別	直 轄 明 渠	排水	石狩川水系 江 別 川	533 364 169	99	28～32	江別市	(5.2) 5.2	早苗別幹線排水 路	5.2	1/1,000	12.4
38	"	忠類第1	"	"	当縁川水系 当 縁 川	961 — 961	64	26～33	忠類村	(8.0) 8.0	第3幹線排水路	3.5	1/600	29.8
											第2幹線排水路	1.7	1/100	4.2
											第1幹線排水路	2.8	1/300	2.7
39	"	忠類第2	"	"	当縁川水系 当 縁 川	586 — 586	67	27～34	忠類村	(9.5) 9.5	第2幹線排水路	6.0	1/100	4.6
											第1幹線排水路	3.5	1/100	3.6
40	"	下音更	"	"	十勝川水系 音 更 川	1,309 — 1,309	236	27～35	音 更 土地改良 区	(10.7) 10.7	第1下流部排水路	1.5	1/100	16.2
											第1幹線排水路	5.5	1/300	15.2
											第2幹線排水路	3.7	1/200	6.2
41	"	石 坂	"	"	紋別川水系 紋 別 川	989 — 989	83	28～35	大樹町	(9.1) 9.1	幹 線 排 水 路	9.1	1/400	15.2
42	"	タヨロマ	"	"	天塩川水系 タヨロマ川	980 870 110	223	26～35	士別市	(8.0) 8.0	タヨロマ川排水路	8.0	1/200	18.5
43	"	清 川	"	"	十勝川水系 札 内 川	1,528 — 1,528	207	19～36	帯 広 土地改良 区	(11.5) 14.9	幹 線 排 水 路	6.4	1/600	15.8
											幹線下流部排水路	5.1	1/100	9.2
											そ の 他	3.4		
44	"	石 狩	"	"	石狩川水系 石 狩 川	1,651 516 1,135	367	26～36	石狩町	(13.7) 17.6	花畔幹線排水路	6.0	1/3,000	4.2
											白井川幹線排水路	5.3	1/2,000	4.6
											紅葉山幹線排水路	2.4	1/2,000	4.1
											そ の 他	3.9		
45	"	三 和	"	"	尻別川水系 尻 別 川	727 727 —	94	28～36	蘭 越 土地改良 区	(3.9) 3.9	三和幹線排水路	3.9	1/500	266.1
46	"	常 呂	"	"	常呂川水系 常 呂 川	2,074 — 2,074	288	28～36	常呂町	(18.3) 21.3	ライトコロ川第 1幹線排水路	6.3	1/5,000	7.0
											ライトコロ川排 水路	12.0	1/4,000	23.2
											そ の 他	3.0		
47	"	石狩厚田	"	"	石狩川水系 石 狩 川	896 667 229	682	26～38	石狩町	(14.3) 14.3	シップ川幹線排 水路	4.6	1/2,000	4.3
											若生幹線排水路	1.3	1/2,000	3.6
											北9号幹線排水路	2.3	1/1,000	3.2
											北8号幹線排水路	3.4	1/1,000	2.0
											北6号幹線排水路	2.7	1/1,000	2.3
48	"	新 川	"	"	石狩川水系 豊 平 川	1,465 833 632	301	33～38	札幌市	(3.0) 9.6	新川幹線排水路	3.0	1/3,000	17.4
											そ の 他	6.6		

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
5.2(8.6+5.6)×1.5						—	江別市の南部に位置し、千歳川に沿った南北に長い地域で、排水は早苗別川に集水するが、断面狭く、河床高く出水時に排水不良のため、排水路を整備した。
3.5(18.2+10.0)×1.4						分水工等 1 落差工等 13	十勝南東端近くに位置し、太平洋側の畑作地帯で、地区の基幹排水路である当縁川は原始河川で、融雪・降水時には畑地に浸水被害をもたらすので、幹線排水路を整備した。
1.7(3.6+2.0)×0.8							
2.8(3.0+1.0)×1.0							
6.0(4.2+1.5)×0.9						落差工等 9	十勝地域の南西部に位置し、当縁川に接する平坦な畑作地帯で、当縁川とその支流に挟まれ、基幹排水路は2条蛇行し、通水断面が小で融雪期、降雨時には、地区に浸水被害を起すので、幹線排水路を整備した。
3.5(3.6+1.5)×0.7							
1.5(6.9+3.0)×1.3						落差工等 21	帯広市の北に隣接する音更町に属し音更川、然別川に挟まれた台地で、明治末期からの農業地帯である。排水路は大正9年に改修された後長年月を経過したため水路埋没等により排水不良となったので改修した。
5.5(7.6+2.5)×1.7							
3.7(4.8+1.2)×1.2							
9.1(8.2+4.0)×1.4						落差工等 25	十勝支庁管内の南方太平洋に近く位置し、酪農を営む地域で、紋別川の支流リュウ川が地区を縦貫し、昭和28～35年に改修されたが、排水機能が低下し、地区内各所で氾らんするので整備した。
8.0(10.5+7.5)×1.0						落差工等 9	上川郡の北部に位置し、その大部分は稲作を営むが、排水組織がなかったため排水路の整備を行った。
6.4(7.0+3.0)×2.0						落差工等 55	帯広市中心から南西約 20 km に位置する畑作地帯で、十勝川の支流札内川の左岸にあって、これに流入するオケネ川は原始河川で排水不良のため、基幹排水路を整備した。
5.1(4.4+2.0)×1.2							
6.0(7.8+4.2)×1.2						—	石狩町の南部の原野に点在し、水田1：畑2の割合である。地区大半が砂地で、以前は排水施設を要しなかったが、水田化が進むと余水が滞水するため、排水改良を行った。
5.3(7.6+4.0)×1.2							
2.4(7.3+4.0)×1.1							
3.9(28.0+16.0)×4.0						分水工等 15 落差工等 11	後志支庁管内の南西部に位置する蘭越町内にあり、尻別川支流のペンケ目国内川は排水機能がきわめて低いので、河川改修を兼ねた排水改良を行った。
6.3(9.7+4.0)×1.9						揚水機等 2	常呂平野の西部一面の平坦地の畑地で、排水路は昭和35年度に国営事業で施工後44、45年度にも維持補修されたが、その後洗掘法崩れを起し排水機能低下のため排水路の整備を行った。
12.0 (23.4+18.0)×1.8							
4.6(5.8+3.0)×1.4						落差工等 1	石狩川河口右岸に展開する地域で、排水幹線は逆水の影響を受けやすい上、断面狭小で排水不良による浸水被害を起こしたので、幹線排水路の改修新設を行い排水路網を整備した。
1.3(7.0+5.0)×1.0							
2.3(4.4+2.0)×1.2							
3.4(3.8+2.0)×0.9							
2.7(5.4+4.0)×0.7							
3.0(12.1+4.0)×2.7						落差工等 2	石狩川水系総合開発豊平地区の一部で札幌市、江別市2市にまたがる地域で、その6割は畑地で、地区北辺に豊平川の蛇行で生じたエレ沼があり、その付近は低湿のため、毎年起る洪水の排除、地下水低下のための水路網を整備した。

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 勾 配	計画最大流量 (m³/s)
49	北海道	浦 白	直 轄 明 渠	排水	石狩川水系 石 狩 川	770 375 395	505	27～39	浦白町	(4.2) 6.6	浦白内川幹線排水路	2.8	1/800	32.5
											滝田川幹線排水路	1.4	1/800	52.2
											そ の 他	2.4		
50	〃	途 別	〃	〃	十勝川水系 途 別 川	3,300 — 3,300	247	28～39	帯 広 土地改良 区	(17.9) 17.9	第 1 幹線排水路	13.7	1/400	57.2
											第 2 幹線排水路	4.2	1/200	11.4
51	〃	中札内	〃	〃	十勝川水系 戸 蔦 別 川	1,018 — 1,018	91	33～39	中札内村	(8.7) 8.7	第 1 幹線排水路	3.3	1/200	7.8
											第 2 幹線排水路	2.7	1/200	16.3
											第 3 幹線排水路	2.7	1/100	10.1
52	〃	江部乙	〃	〃	石狩川水系 石 狩 川	996 826 170	542	34～39	空 知 土地改良 区	(1.2) 1.2	第 1 幹線排水路	1.2	1/1,000	11.9
53	〃	小紋別	〃	〃	紋別川水系 紋 別 川	1,215 — 1,215	108	34～40	広尾町	(10.2) 10.2	第 1 幹線排水路	8.0	1/200	32.4
											第 2 幹線排水路	2.2	1/200	9.7
54	〃	デボツナイ	〃	〃	石狩川水系 スツカワシ 富 良 野 川	930 930 —	465	34～40	上富良野 町	(6.3) 6.3	デボツナイ川幹 線排水路	6.3	1/400	19.0
55	〃	ヤチナイ	〃	〃	堀株川水系 堀 株 川	914 — 914	200	33～40	共和町	(4.9) 4.9	第 1 号幹線排水路	3.1	1/200	30.9
											第 2 号幹線排水路	1.8	1/500	13.7
56	〃	オンネビ ラサ	〃	〃	阿寒川水系 阿 寒 川	1,484 — 1,484	96	35～40	釧路市	(13.7) 13.7	第 1 号幹線排水路	3.4	1/1,000	2.8
											第 2 号幹線排水路	2.0	1/1,000	1.7
											第 3 号幹線排水路	3.6	1/2,000	24.5
											第 4 号幹線排水路	3.0	1/2,000	13.6
											第 5 号幹線排水路	1.7	1/2,000	0.9
57	〃	斗 満	〃	〃	十勝川水系 陸 別 川	662 — 662	57	37～40	陸別町	(5.0) 5.0	第 1 幹線排水路	4.3	1/100	11.1
											第 2 幹線排水路	0.7	1/100	2.5
58	〃	夕 張	総合灌漑排水	〃	石狩川水系 夕 張 川	11,597 7,306 4,291	4,003	26～41	由 仁 土地改良 区	(102.4) 125.3	豊幌西 5 号排水路	2.1	1/1,000	1.3
											豊幌西 3 号排水路	2.1	1/600	1.5
											豊幌西 1 号排水路	2.1	1/500	3.6
											クッタリ排水路	5.4	1/900	12.3
											川向南 7 線排水路	2.1	1/300	1.0
											川向南 9 線排水路	2.4	1/400	4.5
											東 3 号排水路	3.4	1/500	5.2
											東 6 号排水路	2.7	1/500	19.9
											幌向連河幹線排水路	9.3	1/1,000	29.7
											南 12 線排水路	3.2	1/300	1.7

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
2.8(12.9+6.0)×2.3						落差工等 2	札幌の北東 55 km 石狩川右岸浦臼村の中央に位置する地域で、地区西北部は山丘、東南部は平地で、地区内にある2幹線、2支線の排水路は機能を果たしていないため、洪水量を完全排除しよう排水路網を整備した。
1.4(16.9+10.0)×2.3							
13.7(14.9+8.0)×2.3						落差工等 48	十勝川支流途別川流域で帯広市と幕別町にまたがる平坦地で、途別川が唯一の幹線排水路であるが、蛇行し土砂が堆積し排水機能が低下しているので排水改良を行った。
4.2(6.8+3.5)×1.1							
3.3(5.2+1.0)×1.4						落差工等 32	帯広市の南方約 30 km 日高山脈山ろくの中札内村に属する純農村の畑地で明治30年から拓かれた。戸蔭川と札内川に挟まれ、地区内の排水路は戸蔭川に注ぐ小河川数条であるが、原始河川で排水不良のため排水路を整備した。
2.7(7.0+2.5)×1.5							
2.7(6.3+1.5)×1.2							
1.2(9.1+4.0)×1.7						揚水機等 3	空知郡江部乙町と滝川市にまたがる石狩川右岸平坦地で、排水路幹支線の老朽化、排水路のせき止めによる反復利用のため、地区内に湛水被害を生じたので、排水改良のほか、用水確保のため機場整備も行った。
8.0(12.0+3.0)×1.8						落差工等 13	帯広市の南方 60 km 太平洋岸に位置する広尾町に属する畑地帯で、一部酪農専業もある。地区を縦貫する小紋別川は河床が高く蛇行し、排水不良のため幹線排水路を整備した。
2.2(6.6+1.0)×1.4							
6.3(11.0+5.9)×1.7						落差工等 6	富良野盆地の東部に位置する水田地帯で、冬は多雪夏は高温である。上流部は排水不良、下流部では排水路側面の欠壊が甚だしいのでデボツナイ川の改修を行った。
3.1(13.8+9.0)×1.6						分水工等 32 落差工等 20	後志支庁管内の中央部に位置する共和町内に属する地域で、安政4年から開拓され、現在も農業の中心で、地区内のリヤムナイ川とヤチナイ川のいずれも排水機能の低下と、河岸の侵食決壊が著しいので改修する。
1.8(8.9+5.0)×1.3							
3.4(4.6+2.0)×1.3						落差工等 5	釧路市阿寒川右岸と大楽毛川右岸に位置する沖積平野の畑地で、過去に上記2河川がはんらんし、自然堤防が形成され、地区中央部が過湿の上、大楽毛川の排水機能が低下したので、幹線排水の施工と排水路網の整備をした。
2.0(3.2+0.8)×1.2							
3.6(15.6+9.0)×2.2							
3.0(7.1+2.0)×1.7							
1.7(2.8+0.6)×1.1							
4.3(6.4+2.0)×1.1						落差工等 1	帯広市北東 70 km、十勝北端の陸別町に属する畑地でニートロマップ川流域の平野で、地区の排水は同河川に集水する。昭和21年に改修されたが経年変化で排水機能が著しく低下したので、排水路を整備した。
0.7(4.0+2.0)×0.5							
2.1(3.0+1.2)×0.9						落差工等 5	夕張川両岸に展開する地域で、石狩川総合開発事業の一環に含まれる。地区内の幹支線排水路は経年変化で機能が低減し、一方近年排水路のせき止めによる反復利用のため、地区の排水不良をきたしたので、排水系統の整備、排水路の改修等を行った。
2.1(3.0+1.2)×0.9							
2.1(4.2+1.0)×1.6							
5.4(8.6+3.5)×1.7							
2.1(2.2+1.0)×0.6							
2.4(3.8+1.6)×1.4							
3.4(4.3+1.5)×1.4							
2.7(7.3+2.5)×2.4							
9.3(15.6+6.0)×3.2							
3.2(2.4+0.6)×0.9							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 配	計画最 大流量 (m³/s)
58	北海道	夕 張									南11線排水路	3.9	1/1,500	6.3
											西6号排水路	2.0	1/4,200	2.0
											西13号排水路	3.8	1/2,500	8.0
											南14線排水路	1.7	1/1,500	2.1
											西15号排水路	3.3	1/2,000	2.9
											西17号排水路	6.2	1/4,000	11.1
											南4号半排水路	7.3	1/4,000	3.7
											馬追運河幹線排水路	7.9	1/1,500	41.1
											北2号排水路	1.0	1/900	1.2
											零号排水路	4.6	1/4,000	7.1
											南3号排水路	5.9	1/2,000	12.1
											北6号排水路	3.1	1/1,500	4.1
											西8号排水路	1.4	1/600	4.1
											北10号排水路	1.2	1/500	2.2
											北12号排水路	1.8	1/1,200	2.4
											北15号排水路	1.4	1/500	2.1
											山樹幹線排水路	5.9	1/1,100	4.5
											ヘリベツ幹線排水路	5.2	1/400	10.2
											そ の 他	22.9		
59	〃	止 別	直 轄 明 渠	〃	止別川水系 止 別 川	1,544 — 1,544	171	33~41	小清水町	(19.7) 19.7	止別川幹線排水路	7.9	1/600	121.8
											西 幹 線 排水路	2.2	1/2,500	2.3
											美和幹線排水路	2.5	1/700	8.4
											中央幹線排水路	3.8	1/2,500	8.4
											東 幹 線 排水路	3.3	1/2,500	9.2
60	〃	ウツベツ 上流	〃	〃	石狩川水系 ウツベツ川	843 — 843	344	37~41	旭川市	(4.7) 4.7	ウツベツ幹線排水路	4.7	1/300	12.3
61	〃	計呂地	〃	〃	計 呂 地 川	915 — 915	175	37~41	湧別町	(8.6) 8.6	計呂地川幹線排水路	8.6	1/200	27.3
62	〃	長都第2	総合灌漑排水	〃	石狩川水系 千 歳 川	2,516 1,929 587	608	39~41	千歳市	(8.5) 8.5	漁太第1導水路	3.1	1/1,000	5.0
											漁太第2導水路	2.2	1/1,000	5.0
											南20号幹線排水路	3.2	1/1,000	15.3
63	〃	夕張第2	〃	〃	石狩川水系 江 別 川	5,378 4,838 540	1,261	39~41	南幌町	(4.0) 4.0	北8号幹線排水路	2.8	1/1,000	25.0
											北14号幹線排水路	1.2	1/700	8.0

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
3.9(7.5+3.0)×1.5							
2.0(4.9+2.5)×1.2							
3.8(7.7+1.5)×2.4							
1.7(3.6+0.6)×1.5							
3.3(4.4+1.4)×1.5							
6.2(13.0+5.0)×2.0							
7.3(6.2+3.0)×1.6							
7.9(18.6+9.0)×3.2							
1.0(2.8+0.6)×1.1							
4.6(10.1+5.0)×1.7							
5.9(9.3+5.5)×1.9							
3.1(5.6+3.0)×1.3							
1.4(5.3+2.0)×1.1							
1.2(3.3+1.5)×0.9							
1.8(4.2+2.0)×1.1							
1.4(3.3+1.5)×0.9							
5.9(5.3+2.5)×1.4							
5.2(8.2+6.0)×1.1							
7.9(47.8+37.0)×2.7						落差工等 バルブ等 9 5	止別原野といわれ、明治30年ころ植民計画がなされ畑として開発された地域である。大正13年に水田造成も行われたが、昭和初期の凶作によりすべて畑に還元された。大正末期に河川改修もなされたが、その後オホーツク海漂砂による河口閉塞、融雪出水などに対して排水改良を行った。
2.2(5.4+1.5)×1.3							
2.5(6.6+1.5)×1.7							
3.8(8.5+1.6)×2.3							
3.3(9.0+3.0)×2.0							
4.7(7.2+2.7)×1.5						落差工等 1	上川盆地に位置し、夏期は高温多湿で稲作に適するが、地下水が高いので、ウツベツ川の河床を下げ断面を広げ幹支線明渠の整備を行った。
8.6(25.1+20.0)×1.7						落差工等 21	網走支庁管内湧別町東端に位置し、サロマ湖に注ぐ計呂地川流域の山間畑地で、計呂地川流域は戦前戦後を通じ山林の乱伐があり、豪雨や融雪時に出水が甚だしいので排水改良を行った。
3.1(5.8+1.0)×1.6						落差工等 2	石狩川の支流千歳川左岸流域を占める地域で昭和26年から総合灌排事業が行われ、外水被害は除かれた。しかし地区低平部は内水による湛水被害が著しいため、漁太工区、中の沢工区にそれぞれ2台ずつ揚水機場を設けた。
2.2(5.8+1.0)×1.6							
3.2(9.3+3.0)×2.1							
2.8(14.0+6.0)×2.0						落差工等 1	石狩平野の東南部に位置し、幌向運河流域と馬追運河流域に大別され、昭和26年度からの総合灌排事業で、外水被害は防除されたが、低平部は内水による湛水被害が著しいので、流域変更、排水路整備、排水機場の設置などを行った。
1.2(7.4+3.0)×1.4							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 配	計画最大流量 (m³/s)
64	北海道	美 唄	総合灌漑排水	排水	石狩川水系 石 狩 川	14,547 12,704 1,843	4,011	26~42	岩見沢市	(49.7) 148.6	金子南3線幹線排水路	3.6	1/500	3.7
											金子南5線幹線排水路	4.4	1/1,000	5.6
											国道沿幹線排水路	0.8	1/1,000	2.6
											金子16号幹線排水路	2.3	1/1,000	3.9
											基線道路沿幹線排水路	4.0	1/1,000	5.1
											赤川幹線排水路	2.4	1/2,000	7.6
											北村東11号幹線排水路	2.0	1/2,600	3.1
											片倉川幹線排水路	3.4	1/900	16.2
											千間道路沿幹線排水路	4.4	1/4,000	8.7
											北村農場幹線排水路	1.8	1/1,000	1.7
											北村2区乙幹線排水路	1.5	1/1,500	3.0
											北村2区甲幹線排水路	2.2	1/800	3.4
											北村2区幹線排水路	2.0	1/500	2.1
											三日月幹線排水路	2.8	1/2,500	11.5
											大願西幹線排水路	1.8	1/1,000	3.0
											北村東幹線排水路	2.0	1/2,000	1.4
											20線幹線排水路	1.6	1/2,000	1.4
											葵農場幹線排水路	2.1	1/1,000	2.9
											桜井農場幹線排水路	1.6	1/2,000	6.5
											茶志内3幹線排水路	3.0	1/1,500	5.8
											そ の 他	98.9		
65	"	安春川	直轄明渠	"	石狩川水系 寒 川	951 582 369	227	35~42	札幌市	(3.9) 5.6	安春川幹線排水路	3.9	1/4,000	15.8
											そ の 他	1.7		
66	"	新 得	"	"	十勝川水系 十 勝 川	1,398 — 1,398	284	36~42	新得町	(22.2) 22.2	第1幹線排水路	11.9	1/200	11.7
											第2幹線排水路	4.3	1/100	7.5
											第3幹線排水路	6.0	1/300	6.1
67	"	富 沢	"	"	三石川水系 三 石 川	579 238 341	169	38~42	三石町	(4.2) 4.2	辺訪幹線排水路	1.4	1/600	26.3
											延出幹線排水路	2.8	1/300	12.6
68	"	網走川	"	"	網走川水系 網 走 川	581 348 233	113	39~43	網走川 土地改良 区	(2.8) 2.8	西幹線排水路	1.9	1/5,000	3.0
											10線排水路	0.9	1/10,000	1.7
69	"	川 西	"	"	十勝川水系 札 内 川	5,226 — 5,226	513	28~43	帯 広 土地改良 区	(49.5) 49.5	第1幹線排水路	22.4	1/200	49.9
											第4幹線排水路	6.5	1/200	4.4
											第2幹線排水路	14.2	1/200	17.9
											第3幹線排水路	6.4	1/200	7.5
70	"	南更別	"	"	猿 別 川	2,956 — 2,956	201	33~43	更別村	(18.7) 18.7	第1幹線排水路	14.2	1/300	46.0
											第2幹線排水路	2.8	1/200	5.5
											第3幹線排水路	1.7	1/100	7.0

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
3.6(6.0+2.0)×2.0						—	石狩川中流左岸一帯で、美唄市ほか3市町村にまたがる水田地帯で、地区中央の美唄原野は泥炭地で、昭和25年度に石狩川と幾春別川の改修が行われた。美唄・大鵬・利根別の河川改修とともに地区内幹支線排水路の整備をした。
4.4(6.9+3.0)×1.3							
0.8(3.8+1.0)×1.4							
2.3(4.4+1.0)×1.7							
4.0(5.0+2.0)×1.5							
2.4(6.8+2.0)×1.6							
2.0(4.8+1.2)×1.8							
3.4(9.3+3.0)×2.1							
4.4(7.4+2.2)×2.6							
1.8(3.2+1.0)×1.1							
1.5(4.4+1.4)×1.5							
2.2(4.9+1.0)×1.3							
2.0(3.2+1.0)×1.1							
2.8(9.9+3.0)×2.3							
1.8(4.1+1.5)×1.3							
2.0(3.4+0.6)×1.4							
1.6(3.4+1.0)×1.2							
2.1(4.9+1.0)×1.3							
1.6(6.6+3.0)×1.8							
3.0(5.6+1.8)×1.9							
3.9(8.1+4.5)×1.8						—	札幌市琴似と石狩町にまたがる地域で、排水幹線の安春川、旧発寒川が未改修で、また旧石狩川の逆水により排水不良のため、上記2幹線を統合した安春川幹線を中央に配置し地区内排水路を整備した。
11.9(7.5+3.5)×1.0						分水工等 11 落差工等 54	十勝平野の西端に位置する新得町、清水町に属し、3団地に分れ大部は畑地で、少し水田を含む地域である。地区内の旧来の河川は排水不良で降雨時にはらんを繰返すので、排水路の整備を行った。
4.3(6.0+2.0)×1.0							
6.0(5.2+1.0)×1.4							
1.4(11.9+6.5)×1.8						分水工等 64 落差工等 2	日高支庁管内三石郡南部に位置する地域で、昭和28～33年のたびたびのはんらんにより浸・冠水の被害を受けたので、排水改良事業が着工された。
2.8(8.8+5.8)×1.0							
1.9(8.3+5.0)×1.1						揚水機等 2	網走川が網走湖に注ぐ女満別町に属し、地形上と網走湖水の影響による水害から守るため、治水事業によって外水の浸水防御と合せて内水をポンプ排水した。
0.9(8.0+5.0)×1.0							
22.4(12.7+7.0)×1.8						落差工等 182	帯広市の南西から日高山系に至る 5,226 ha に及ぶ畑地帯で、排水基幹は売買川であるが、この川は蛇行し断面狭小のため、しばしば浸水被害を起すので、地区の排水路網を整備した。
6.5(4.7+1.5)×0.8							
14.2(11.4+7.0)×1.1							
6.4(6.5+2.5)×1.0							
14.2(16.5+9.0)×1.5						分水工等 2 落差工等 73	帯広市の南方約 30 km 更別村に属する畑地帯で、古くから拓けているが、地区の幹線排水路は、十勝川支流のサッチャルベツ川であるが、この川は原始河川で排水機能が不十分のため、幹線排水路と排水路網を整備した。
2.8(5.2+2.0)×0.8							
1.7(4.0+2.0)×1.0							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 配	計画最 大流量 (m³/s)
71	北海道	中士幌	総合灌漑排水	排水	十勝川水系 十勝川	6,329 1,120 5,209	859	34～43	音更町	(53.4) 53.4	第4幹線排水路	6.0	1/200	12.3
											第5幹線排水路	1.5	1/100	5.6
											第1幹線排水路	8.6	1/200	16.6
											第2幹線排水路	7.5	1/200	44.9
											第3幹線排水路	4.9	1/200	12.6
											第6幹線排水路	5.6	1/200	13.4
											第8幹線排水路	3.6	1/200	6.7
											士幌幹線排水路	11.3	1/300	56.1
											第7幹線排水路	4.4	1/200	6.8
72	〃	サロベツ	直轄明渠	〃	天塩川水系 サロベツ川	3,470 — 3,470	642	36～43	北海道	(20.8) 21.6	サロベツ川下流 拡 幅 排 水 路	3.6	1/6,400	188.7
											サロベツ放水路	3.9	1/1,300	152.4
											サロベツ川上流 拡 幅 排 水 路	1.2	1/3,000	151.0
											サロベツ導水路 幹 線 排 水 路	4.3	1/900	193.4
											福 永 排 水 路 幹 線 排 水 路	7.8	1/700	31.4
											そ の 他	0.8		
73	〃	萌 和	〃	〃	メ ム 川	2,211 — 2,211	170	36～43	大樹町	(18.7) 18.7	第1幹線排水路	11.0	1/300	39.1
											第2幹線排水路	7.7	1/200	11.6
74	〃	春 日	〃	〃	遊楽部川水系 遊 楽 部 川	627 17 610	78	40～44	八雲町	(4.8) 4.8	第1幹線排水路	3.9	1/700	54.8
											第2幹線排水路	0.9	1/200	3.3
75	〃	深 川	〃	〃	石狩川水系 石 狩 川	1,731 — 1,731	518	36～44	深 川 土地改良 区	(16.9) 19.3	芽生川幹線排水路	8.9	1/1,000	33.5
											赤井川幹線排水路	8.0	1/700	13.2
											そ の 他	2.4		
76	〃	熱 郭	〃	〃	朱太川水系 熱 郭 川	659 — 659	152	37～44	黒松内町	(7.4) 7.4	第1号幹線排水路	5.8	1/600	48.5
											第2号幹線排水路	1.6	1/300	17.2
77	〃	尾 幌	〃	〃	尾 幌 川	2,054 — 2,054	118	37～44	厚岸町	(14.1) 16.2	尾幌幹線排水路	5.4	1/700	206.5
											門静幹線排水路	8.2	1/2,000	95.2
											オッポロ幹線排 水路	0.5	1/900	51.7
											そ の 他	2.1		
78	〃	沼の上	〃	〃	シブノツナイ 川水系 シブノツナ イ川	1,720 — 1,720	192	38～44	湧別町	(14.3) 15.5	沼口処理工	0.7	1/6,500	32.4
											信 部 内 川 幹 線 排 水 路	4.0	1/1,600	48.8
											信 幹 線 排 水 路 東 川	3.9	1/6,500	32.4
											信 東 川 第 2 幹 線 排 水 路	1.0	1/400	10.0
											旭第1幹線排水路	3.5	1/3,500	10.5
											旭第2幹線排水路	1.2	1/450	4.3
											そ の 他	1.2		

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 草
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
6.0(7.0+4.0)×1.0						分水工等 7 落差工等 99	十勝川の左岸、音更川の右岸にあって水田面積1,120 ha、畑 5,209 ha からなる農業地帯で、明治中期から水稻が作られ、総合灌排事業地区である。この事業以前は系統的用排水路がなく、水利施設の老朽が甚しかったので、抜本的用排水系統の整備を行った。
1.5(4.0+1.0)×1.0							
8.6(7.0+1.0)×2.0							
7.5(12.6+5.0)×1.9							
4.9(8.3+1.5)×1.6							
5.6(6.0+1.5)×1.5							
3.6(5.1+1.5)×1.2							
11.3(14.2+5.0)×2.3							
4.4(4.8+1.5)×1.1						落差工等 2	道北端のサロベツ川の沿線区域の畑地帯で、大半が戦後入植地であるが、気象条件から畜産経営へ移行している。サロベツ川、上エコロベツ川は降雨と融雪によりたびたび水害を起すため、導水路、放水路の掘削、支派川の改修を行った。
3.6(48.8+11.0)×6.3							
3.9(34.0+10.0)×4.0							
1.2(31.0+10.0)×5.4							
4.3(29.4+13.0)×4.1							
7.8(14.3+8.0)×2.1							
11.0(13.2+6.0)×1.8						落差工等 21	十勝支庁管内大樹町と一部忠類村に属する畑地帯で、一部に酪農経営もある。地区中央に標高185 m の独立した山を含み、地区の排水はメム川とその支流によるが、これらは自然河川で、排水機能が小さいので排水路の整備を行った。
7.7(7.1+1.5)×1.4							
3.9(20.0+12.0)×2.3						分水工等 3 落差工等 19	渡島管内の八雲町地内の酪農畑作地帯で、表土は火山灰を含む砂壤土、下層土は黒色腐植を有する壤土である。雨量は管内他地域に比べて多く、明渠排水事業を行った。
0.9(4.8+2.0)×2.0							
8.9(13.9+7.0)×2.3						—	空知管内深川市と妹背牛町にまたがる水田地帯で、芽生川を排水路とする地域で、昭和35年に国営事業の一部とし事業が完了したが、芽生川と地区北部の赤川幹線の排水機能が低下したため、芽生川幹支川と赤川幹線の改良を行った。
8.0(8.1+4.5)×1.8							
5.8(19.8+13.0)×1.7						分水工等 48 落差工等 12	後志支庁黒松内町に属する丘陵地の酪農地帯で、明治4年から開拓。地区の排水幹線である熱郭川は原始河川で出水時には河岸の決壊、はんらんを生ずるので、この河道を改修した。
1.6(13.0+9.0)×1.0							
5.4(28.0+13.0)×5.0						分水工等 54 落差工等 12	釧路支庁厚岸町に属し、盆地にある畑地帯で、流域は山地が大部を占め、地区は緩勾配のため、降雨時排水不良でたん水を生ずるので、幹線排水路の施工と排水路網の整備を行った。
8.2(29.7+21.0)×2.8							
0.5(16.5+9.0)×2.5							
0.7(28.8+20.0)×2.2						分水工等 7 落差工等 17	湧別町の西北、沼の上にある酪農畑作混同地帯で、地区の計画主眼は河口処理と地下水排除である。河口処理は暗渠を設けシブノツナイ潮水位の安定をはかり、地下水排除には幹支線明渠の新設改修を行った。
4.0(25.7+20.0)×1.9							
3.9(28.8+20.0)×2.2							
1.0(6.5+2.0)×1.5							
3.5(14.0+8.0)×1.5							
1.2(3.8+1.0)×1.4							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 勾 配	計画最大流量 (m³/s)
79	北海道	清 里	直 轄 明 渠	排水	宇 遠 別 川	1,250 — 1,250	284	38~44	清里町	(16.9) 16.9	宇 遠 別 川 幹 線 排 水 路	12.3	1/1,000	22.6
											7 線 排 水 路	1.6	1/700	3.3
											5 線 排 水 路	1.0	1/200	1.4
											3 線 排 水 路	2.0	1/333	1.8
80	"	駒 島	"	"	十勝川水系 糠 内 川	2,052 — 2,052	178	39~44	幕別町	(13.7) 13.7	第 1 幹線排水路	9.9	1/125	32.6
											第 2 幹線排水路	1.3	1/330	2.6
											第 3 幹線排水路	2.5	1/115	4.0
81	"	朝 日	"	"	当縁川水系 当 縁 川	669 — 669	58	39~44	忠類村	(7.5) 7.5	第 1 幹線排水路	6.1	1/600	32.6
											第 2 幹線排水路	1.4	1/150	4.1
82	"	夕張太	内 水 排 除	"	石狩川水系 江 別 川	2,261 2,163 98	414	42~44	南幌町	(9.3) 9.3	夕張太集水路	8.8	1/1,500	7.4
											西 20 号 集 水 路	0.5	1/900	11.4
83	"	北 島	"	"	石狩川水系 千 歳 川	1,266 1,205 61	293	42~44	恵庭市	(8.8) 8.8	第 1 集 水 路	5.6	1/900	10.3
											第 2 集 水 路	3.2	1/2,500	4.6
84	"	豊 別	直 轄 明 渠	"	幕 別 川	1,293 — 1,293	68	38~44	稚内市	(10.3) 10.3	川南幹線排水路	0.7	1/300	3.9
											豊別幹線排水路	3.9	1/600	86.7
											上豊別幹線排水路	3.0	1/400	15.4
											宇流谷幹線排水路	2.7	1/600	30.2
85	"	知来別	"	"	尻別川水系 真 狩 川	555 58 497	92	40~45	真狩村	(7.6) 7.6	知来別幹線排水路	7.6	1/400	70.5
86	"	上帯広	"	"	十勝川水系 帯 広 川	1,283 — 1,283	129	40~45	帯 広 土地改良 区	(16.5) 16.5	第 1 幹線排水路	7.8	1/200	9.7
											第 2 幹線排水路	3.5	1/150	4.8
											第 3 幹線排水路	5.2	1/160	5.1
87	"	久著呂	"	"	釧路川水系 久 著 呂 川	485 — 485	46	40~45	鶴居村	(7.2) 7.2	久著呂幹線排水路	7.2	1/1,000	77.1
88	"	北川口	"	"	天塩川水系 天 塩 川	908 — 908	39	41~45	天塩町	(7.9) 7.9	第 1 幹線排水路	2.8	1/1,500	12.1
											第 2 幹線排水路	2.1	1/2,500	3.5
											第 3 幹線排水路	2.0	1/3,000	6.5
											第 4 幹線排水路	1.0	1/1,000	2.9
89	"	越中紋別	"	"	紋別川水系 紋 別 川	641 — 641	44	41~45	広尾町	(5.4) 5.4	幹 線 排 水 路	5.4	1/150	26.0
90	"	御茶の水	内 水 排 除	"	石狩川水系 石 狩 川	3,950 3,642 308	975	42~45	江別市	(5.6) 5.6	南 1 線集水路	1.7	1/300	1.7
											赤 川 集 水 路	1.9	1/1,000	1.0
											ダ ル ミ 集 水 路	1.3	1/2,500	2.2
											豊 幌 集 水 路	0.7	1/1,500	2.1

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
12.3(12.0+6.0)×2.0						分木工等220 落差工等 20	斜里川左岸清里町に属する畑作地帯で、地区の排水幹線宇遠別下流は昭和7、8年、同20年、28年に改修されたが、その後機能が低下している。宇遠別川を幹線排水路として改修するほか支線明渠、暗渠排水などを整備した。
1.6(4.2+1.2)×1.0							
1.0(2.8+1.0)×0.6							
2.0(3.4+1.0)×0.8							
9.9(17.6+14.0)×0.9						分木工等 1 落差工等 13	帯広市の東に隣接する幕別南町南端に位置する畑作酪農地区で、猿別川支線の糠内川の上流に当るが、この川が未改修の原始河川で排水不良のため、基幹排水路の整備を行った。
1.3(4.7+1.5)×0.8							
2.5(5.0+1.0)×0.7							
6.1(14.2+9.0)×1.3						落差工等 19	十勝平野南方に位置する忠類村に属し、当縁川左岸上流に当る畑作混同地帯で、明治中期から拓けている。基幹排水路が整備されないため過湿害をもたらすので排水改良を行った。
1.4(4.7+1.5)×0.8							
8.8(8.8+4.0)×1.6						—	石狩平野の南東部にあって千歳川、旧夕張川を用排水本線とし、稲作を主とする地帯で、主要幹線排水は整備されたが、洪水時には湛水により内水被害が大きいため、排水機場の新設と地区内集水路の2路線を整備した。
0.5(7.1+5.8)×1.3							
5.6(9.2+3.5)×1.9						—	石狩平野の南部に位置し、千歳川とその諸支線を用・排水本線とし、稲作を主とする地帯で、排水本線と排水網は整ったが、洪水時には低位部で内水被害が著しいので、排水機場の新設とともに集水路2路線を整備した。
3.2(10.2+7.5)×0.9							
0.7(4.3+1.0)×1.1						落差工等 10	道最北端稚内市の声間川上流に位置する畑作地帯で、地区の基幹排水路である豊別川は蛇行し、断面狭小で地区に浸水過湿害を与えるので排水路の整備を行った。
3.9(15.7+8.5)×2.4							
3.0(7.6+2.2)×1.8							
2.7(11.4+4.5)×2.3							
7.6(21.6+14.0)×1.9						分木工等 92 落差工等 7	後志支庁内の南部真狩村に属する畑作地帯で、排水幹線である知来別川が原始河川のため、排水不良で浸水、氾濫を起こすので、排水路網を整備した。
7.8(6.5+2.5)×1.0						分木工等 1 落差工等 69	帯広市中心から南西約 23 km に位置する 畑作酪農混同経営である。排水河川は帯広川右岸3条の小河川であるが、いずれも原始河川で降雨時と融雪時に氾濫を起こすので、排水改良を行った。
3.5(4.7+1.5)×0.8							
5.2(4.7+1.5)×0.8							
7.2(23.4+13.0)×2.6						分木工等 11 落差工等 7	釧路市北方約 30 km に位置する 久著呂川の流域で、酪農を主とする地域で久著呂川上流は常時過湿、出水時には、氾濫被害を起こし、下流は根釧湿原のため幹線排水路の整備をした。
2.8(14.3+11.0)×1.1						—	日本海に面した天塩川下流に位置する酪農畑作混同営農の低平泥炭地である。低平地のため出水時に浸水被害を起こすので排水改良を行い基盤を整備した。
2.1(8.0+5.0)×1.0							
2.0(10.6+5.0)×1.4							
1.0(6.4+4.0)×0.8							
5.4(10.8+6.0)×1.2						落差工等 23	帯広市の南方約 55 km 紋別川の支流 エタラ川流域にあり、基盤整備として排水改良が必要で、地区中央を蛇行するエタラ川を幹線排水路として整備した。
1.7(3.4+1.0)×0.8						落差工等 1	石狩平野の中央に位置し、石狩川、幾春別川を用排水本線とする。平坦地で地区内の排水幹線は一応整備されたが、地区周辺は河川で囲まれ低平のため内水による湛水被害を受けるので、排水機場の新設と集水路2路線を整備した。
1.9(3.4+1.0)×0.8							
1.3(5.4+1.8)×1.2							
0.7(4.8+1.5)×1.1							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水区分	取(排)水源名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益戸数 (戸)	工事期間	管理者	水路総延長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 勾 配	計画最大流量 (m³/s)
91	北海道	宇曽丹	直轄明渠	排水	頓別川水系 頓別川	589 — 589	68	42～45	浜頓別町	(4.9) 4.9	第1幹線排水路	2.9	1/800	6.2
											第2幹線排水路	1.6	1/800	0.9
											第3幹線排水路	0.4	1/1,000	1.2
92	〃	金子	内水排除	〃	石狩川水系 幌向川	1,586 1,531 55	537	42～45	岩見沢市	(0.6) 0.6	南5線集水路	0.5	1/1,000	2.4
											東15集水路	0.1	1/1,000	1.9
93	〃	西長沼	〃	〃	石狩川水系 旧夕張川	1,032 941 91	277	43～45	長沼町	(3.7) 3.7	西長沼排水路	3.7	1/2,500	4.1
94	〃	北 斗	〃	〃	石狩川水系 幌向川	1,071 979 92	238	43～45	栗沢町	(3.5) 3.5	北 斗 排 水 路	3.5	1/3,000	14.6
95	〃	勇 知	直轄明渠	〃	勇 知 川	919 — 919	187	39～46	稚内市	(9.3) 9.3	勇知幹線排水路	9.3	1/600	70.1
96	〃	斜里左岸	〃	〃	斜里川水系 斜 里 川	1,521 — 1,521	157	41～46	斜里町	(16.4) 16.4	西1号幹線排水路	3.6	1/2,000	10.0
											合流幹線排水路	1.1	1/1,500	6.3
											西3号幹線排水路	2.3	1/1,500	6.1
											西5線排水路	2.8	1/500	1.4
											西4線排水路	1.7	1/800	0.9
											西3線排水路	1.7	1/800	1.1
											西2線排水路	1.6	1/800	1.0
											西1線排水路	1.6	1/800	1.2
97	〃	清真布	内水排除	〃	石狩川水系 夕張川	3,036 2,822 214	577	43～46	栗沢町	(7.6) 7.6	クッタリ下流集水路	3.3	1/4,000	6.4
											クッタリ上流集水路	1.7	1/3,000	2.1
											東3号排水路	1.0	—	3.7
											東6号排水路	1.6	1/2,000	16.0
98	〃	江別太	〃	〃	石狩川水系 石 狩 川	1,067 491 576	146	44～46	江別市	(4.4) 4.4	江別太集水路	1.4	1/2,000	1.7
											中樹林集水路	3.0	1/4,000	2.8
99	〃	開 発	〃	〃	〃	1,152 869 283	306	44～46	美唄市	(2.2) 2.2	開 発 集 水 路	2.2	1/4,000	7.0
100	〃	北 村	〃	〃	石狩川水系 旧美唄川	1,010 896 114	258	44～46	北 村	(2.8) 2.8	北村1号集水路	1.6	1/2,500	3.7
											北村2号集水路	1.2	1/2,000	2.3
101	〃	若 里	直轄明渠	〃	床 丹 川	809 19 790	111	42～46	佐呂間町	(8.8) 8.8	床丹川幹線排水路	8.2	1/4,200	18.0
											西1線排水路	0.6	1/3,200	2.2

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
2.9(8.4+2.0)×1.6						—	道北部傾別川下流に位置する天北丘陵の一部の畑作酪農地帯で、地区の排水網は、戦前に一部改修されたが、地盤沈下、浮上り等により機能が低下したので、幹線排水路を整備した。
1.6(3.9+1.5)×0.6							
0.4(3.9+1.5)×0.6							
0.5(4.4+0.8)×1.2						落差工等 1 余水吐等 3	幌向川、旧幾春別川を排水本線とする稲作を主とした平坦地で、出水時には湛水被害を生ずるので、排水機場の新設と集水路2線を整備した。
0.1(4.3+1.3)×1.0							
3.7(6.7+2.5)×1.4						揚水機等 3	石狩平野の南東に位置し、馬追運河、旧夕張川を用排水本川とし、稲作を主とする。平坦地で低平部のため内水による湛水被害を生ずるので、排水機場の新設と集水路1路線を設置した。
3.5(8.7+3.6)×1.7						—	石狩平野中央部に位置し、幌向川、清真布川を排水本線とし稲作を主とする平坦地で、地区が低位部のため、内水による湛水被害が著しいので、排水機場の新設と集水路を整備した。
9.3(19.0+8.0)×3.0						落差工等 1	道最北端稚内市に属し、勇知川の流域の畑作酪農地帯で50mm程度の降雨で、浸水と過湿害を起こすので、基幹排水路を改修した。
3.6(10.1+5.0)×1.7						分土工等 90	斜里川左岸の沖積平坦な畑作地帯である。しかし既設排水施設の機能低下と斜里川の外水位、オホーツク海の潮位の関係から浸水被害や冷害を増長するので、排水路の改修を行った。
1.1(7.2+2.1)×1.7							
2.3(6.8+1.7)×1.7							
2.8(3.1+1.0)×0.7							
1.7(3.1+1.0)×0.7							
1.7(3.4+1.0)×0.8							
1.6(3.1+1.0)×0.7							
1.6(3.4+1.0)×0.8							
3.3(9.8+6.5)×1.1						落差工等 1	石狩平野中央部に位置し、幌向川清真布川を排水本川とし、稲作を主とする平坦地である。国営事業により地区内排水網は整備されたが、内水による湛水被害が生じるので2ヵ所の排水機場の新設、集水路2路線の整備を行った。
1.7(5.0+2.0)×1.0							
1.0(8.6+5.0)×1.2							
1.6(9.0+3.6)×1.8							
1.4(4.3+0.7)×1.2						—	石狩平野中央に位置し、夕張川、千歳川を排水本川とし、稲作を主とする平坦地で、内水による湛水被害が著しいので2ヵ所の排水機場の新設と集水路路線を整備した。
3.0(6.8+3.2)×1.2							
2.2(11.1+6.6)×1.5						—	石狩平野の中央に位置し、美唄川ほか2河川を排水本川とし、稲作を主とする平坦地で、内水によるたん水被害を起こすので排水機場の新設と集水路1路線を整備した。
1.6(6.7+2.5)×1.4						揚水機等 3	石狩平野の中央に位置し、石狩川、旧美唄川を排水本川とし稲作を行う平坦地で、内水による湛水被害を起すので、排水機場の新設、集水路2路線を整備した。
1.2(5.1+1.2)×1.3							
8.2(24.0+18.4)×1.4						分土工等 62 落差工等 23 バルブ等 1	網走支庁管内中央部佐呂間町に属し、床丹川流域の平坦な畑地帯で、床丹川とその支流等は排水機能が不十分なため、常時過湿状態を呈するので、明渠排水を行った。
0.6(6.4+2.0)×1.1							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 区分	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 勾 配	計画最大流量 (m³/s)
102	北海道	雨煙別	直轄明渠	排水	石狩川水系 夕張川	2,461 1,949 512	633	39~47	栗山町	(20.9) 20.9	雨煙別川 幹線排水路	2.9	1/700	128.3
											トキト川 幹線排水路	4.6	1/700	19.2
											赤人川幹線排水路	1.8	1/400	6.8
											学田川幹線排水路	5.5	1/1,300	65.5
											杵臼川幹線排水路	1.1	1/600	12.9
											角田川幹線排水路	5.0	1/1,000	5.7
103	〃	上音更	〃	〃	十勝川水系 音更川	1,957 — 1,957	165	40~47	士幌町 土地改良 区	(13.1) 13.1	第1幹線排水路	5.8	1/320	24.7
											第2幹線排水路	3.7	1/250	15.7
											第3幹線排水路	2.9	1/350	29.7
											第4幹線排水路	0.7	1/110	4.0
104	〃	士幌	〃	〃	十勝川水系 音更川	1,815 — 1,815	190	41~47	士幌町 土地改良 区	(21.7) 21.7	士幌下流部排水路	14.4	1/380	17.6
											放 水 路	2.0	1/140	5.7
											士幌上流排水路	5.3	1/100	3.3
105	〃	上途別	〃	〃	十勝川水系 途別川	1,502 — 1,502	136	42~47	帯広 土地改良 区	(9.4) 9.4	上途別幹線排水路	9.4	1/360	19.1
106	〃	江別南	直轄灌漑排水	〃	石狩川水系 江別川	1,708 1,269 439	359	42~47	江別市	(5.8) 5.8	上江別集水路	1.1	1/4,000	16.0
											登満別集水路	4.7	1/4,000	16.0
107	〃	赤川	内水排除	〃	石狩川水系 石狩川	3,145 2,865 280	719	44~47	北村	(0.1) 0.1	赤川集水路	0.1	1/2,000	4.9
108	〃	生花	農地開発	〃	生花苗川	595 — 595	42	43~48	大樹町	(3.2) 16.6	第1号幹線 明渠排水路	3.2	1/1,500	25.4
											そ の 他	13.4		
109	〃	中央長都	〃	〃	千歳川	1,085 — 1,085	155	37~48	千歳市	(13.0) 21.1	第2幹線排水路	2.4	1/3,000	3.9
											第1幹線排水路	1.3	1/3,000	6.6
											第1号明渠排水路	0.8	1/3,000	2.0
											第2号明渠排水路	0.7	1/3,000	1.2
											第7号明渠排水路	0.9	1/3,000	1.4
											第8号明渠排水路	2.0	1/3,000	1.7
											第9号明渠排水路	0.7	1/3,000	1.5
											第10号明渠排水路	2.3	1/3,000	2.3
											第4号明渠排水路	1.1	1/3,000	1.2
											第5号明渠排水路	0.8	1/3,000	1.5
110	〃	フモンケ	直轄明渠	〃	安平川水系 安平川	1,282 7 1,275	58	41~48	早来町	(17.1) 17.1	第1幹線排水路	12.1	1/6,000	22.4
											第2幹線排水路	4.4	1/2,000	5.2
											第3幹線排水路	0.6	1/4,000	1.5

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
2.9(25.4+17.0)×5.3						落差工等 13	石狩平野の南部栗山町に位置する大夕張灌漑事業の受益地で水田単作・水田畑混同地帯である。灌漑施設は整備されたが、地区内各排水路とも原始河川で排水機能が不十分であるので、幹線排水路を改修した。
4.6(9.7+4.0)×1.9							
1.8(5.7+1.5)×1.6							
5.5(18.8+9.5)×3.1							
1.1(7.9+2.5)×1.8							
5.0(6.9+4.0)×3.6							
5.8(9.8+5.0)×1.6						分土工等 2 落差工等 83	十勝平野の北部音更川右岸に数条の溪流によって刻まれる掌状に広がる畑作酪農地帯で、いずれも自然河川で、降雨時、融雪時には耕地に浸水し過湿の被害を与えるので、幹線排水路の整備を行った。
3.7(7.4+3.0)×1.4							
2.9(10.4+6.0)×1.6							
0.7(3.8+1.0)×0.8							
14.4(8.2+3.0)×1.6						分土工等 1 落差工等 26	十勝川により南北に分割され、土幌町上土幌町にまたがる畑作酪農地帯で、地区内排水河川は昭和初期に一部改修されたが、未改修部が多く排水不良のため放水路の新設、幹線排水路の整備を行った。
2.0(2.7+2.0)×0.7							
5.3(4.2+1.0)×0.8							
9.4(9.7+4.5)×1.5						—	帯広市の一部に属し、無名川流域一帯の畑作酪農地帯で、地区中央を貫流する無名川が在来河川で、降雨ごとに浸水被害を繰り返すので、改修した。
1.1(13.7+6.8)×2.3						—	石狩平野に位置し千歳川を用排水源とし、稲作を主とする平坦地で、泥炭地の地盤沈下により内水による湛水被害を生ずるので、排水機場2ヵ所の新設、支線排水路の整備を行った。
4.7(13.7+6.8)×2.3							
0.1(7.0+2.5)×1.5						—	石狩平野の中央に位置し、美唄川、大頓川を排水本川とし、稲作を主とする平坦地で、内水による湛水被害を生ずるので、2ヵ所の排水機場と排水路を改修した。
3.2(16.0+8.0)×2.0						分土工等 27 落差工等 18	十勝南部沿岸地帯に属する畑地帯で、地区の機械化による酪農経営には、排水や土壌改良を必要とするので、開畑、道路、明渠等の事業を一貫して行った。
2.4(7.2+3.0)×1.4						—	千歳川右岸に位置する湿地、泥炭、沖積土等からなる平坦地で、地区は畑作酪農経営を行うため、昭和39～48年度に開畑、道路、明渠排水、土壌改良等が実施された。
1.3(10.6+5.0)×1.4							
0.8(5.2+1.0)×1.4							
0.7(4.3+1.0)×1.1							
0.9(4.6+1.0)×1.2							
2.0(4.9+1.0)×1.3							
0.7(4.6+1.0)×1.2							
2.3(5.5+1.0)×1.5							
1.1(4.3+1.0)×1.1							
0.8(4.6+1.0)×1.2							
12.1 (26.0+20.0)×1.8						分土工等 23 落差工等 12	勇払郡早来町に属する畑地帯で、昭和5年に滝川から酪農を目的に32戸が入植した。その後、畑作と乳牛中心の大経営となり開畑、排水改良、耕土改良等が昭和41年から行われた。
4.4(8.8+4.0)×1.3							
0.6(5.8+1.0)×1.2							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水区分	取(排)水源名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益戸数 (戸)	工事期間	管理者	水路総延長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平均 配	計画最大流量 (m³/s)
111	北海道	目 名	直 轄 明 渠	排水	メ ナ 川	852 208 644	141	43～48	静内町	(10.0) 10.0	第 1 幹線排水路	4.9	1/400	21.0
											第 2 幹線排水路	5.1	1/800	5.8
112	〃	ポールンベツ	〃	〃	幌別川水系 幌 別 川	540 — 540	17	43～48	歌登町	(6.1) 6.1	ポールンベツ 幹 線 排 水 路	2.5	1/500	35.2
											岩尾幹線排水路	3.6	1/300	14.7
113	〃	丸 万	〃	〃	丸 万 川	570 — 570	80	43～48	網走市	(8.4) 8.4	丸万川幹線排水路	7.8	1/200	19.3
											実豊川幹線排水路	0.6	1/500	1.1
114	〃	熊 牛	〃	〃	十勝川水系 十 勝 川	1,500 — 1,500	122	43～48	清水町 土地改良 区	(14.5) 14.5	第 1 幹線排水路	6.8	1/800	9.6
											第 2 幹線排水路	4.1	1/800	9.5
											第 3 幹線排水路	2.4	1/400	3.1
											第 4 幹線排水路	1.2	1/280	1.8
115	〃	上美唄	内 水 排 除	〃	石狩川水系 旧 美 唄 川	2,006 1,845 161	455	46～48	美唄市	(0.8) 0.8	上 美 唄 集 水 路	0.8	1/3,000	3.0
116	〃	納 内	直 轄 明 渠	〃	石狩川水系 石 狩 川	1,864 1,864 —	638	41～49	深川市	(18.3) 18.3	入志別幹線排水路	3.9	1/600	28.0
											熊川幹線排水路	1.3	1/500	4.6
											オサナインケッ ブ川幹線排水路	6.5	1/700	32.2
											無名川幹線排水路	3.3	1/700	8.4
											吉野川幹線排水路	3.3	1/500	21.5
117	〃	田 中	〃	〃	網走川水系 女 満 別 川	2,703 — 2,703	246	43～49	美幌町	(21.7) 21.7	女満別川幹線排水路	10.2	1/1,400	21.2
											田中川幹線排水路	7.4	1/900	10.0
											第 1 幹線排水路	4.1	1/460	2.2
118	〃	北 浜	〃	〃	遠 別 川	616 122 494	86	44～49	遠別町 土地改良 区	(6.1) 6.1	第 1 幹線排水路	1.8	1/888	12.4
											第 2 幹線排水路	3.5	1/800	7.9
											第 3 幹線排水路	0.8	1/2,000	1.8
119	〃	仁達内	〃	〃	ボン仁達内 川	527 — 527	31	44～49	浜頓別町	(6.8) 6.8	仁達内幹線排水路	5.1	1/700	39.3
											オ サ チ ナ イ 幹 線 排 水 路	1.7	1/400	18.4
120	〃	豊 畑	〃	〃	静内川水系 静 内 川	623 182 441	103	45～49	静内町	(6.0) 6.0	第 1 幹線排水路	4.9	1/460	20.7
											第 2 幹線排水路	0.7	1/400	1.2
											第 3 幹線排水路	0.4	1/1,000	2.9
121	〃	東	〃	〃	湧別川水系 湧 別 川	1,350 125 1,225	283	45～49	湧別町	(17.0) 17.0	零号幹線排水路	2.8	1/3,000	8.7
											基 線 排 水 路	1.2	1/500	0.7
											1 号幹線排水路	1.4	1/600	0.6
											東 2 線排水路	2.7	1/600	1.3
											東 3 線排水路	3.4	1/700	1.5
											東 5 線排水路	3.8	1/1,400	4.3
											東 6 線排水路	1.7	1/600	1.8

内 各 幹 線 水 路						付帯施設	沿 革
水 路 形 式							
開 渠	暗 渠	サイホン	トンネル	パイプ	水路橋		
4.9(9.5+5.0)×1.5						分水工等112 落差工等 16	日高支庁管内静内町に属し、畑作を主とし、明治4年に拓かれた。昭和16～18年に排水溝が設けられたが、地区全般が過湿のため、排水事業が着工された。
5.1(6.7+2.5)×1.4							
2.5(13.0+7.0)×1.9						落差工等 33	宗谷支庁管内歌登町に属し、盆地に位置する畑作酪農地帯で地区の幹線排水河川が原始河川のため降雨ごとに浸水被害を起こすので、幹線排水路の改修を行った。
3.6(7.9+4.0)×1.3							
7.8(21.2+16.0)×1.3						分水工等103 落差工等 10	網走支庁管内で、北端はトーフツ湖に面した緩傾斜地で、土質は透水性が悪く、湿害を受け易い。上丸万川が自然河川で、侵食、はんらんを起こすので排水整備を行った。
0.6(3.4+1.0)×0.6							
6.8(7.1+3.5)×1.6						落差工等 25	十勝川中流左岸、清水町の東方 5 km の台地に位置する畑作酪農地帯で、明治中期からマメ作を主としたが、近年は酪農、根菜に移行している。地区は十勝川の外水と、隣接高台からの押水のため、浸水害を受けるので、排水路を整備した。
4.1(7.1+3.5)×0.9							
2.4(4.3+1.5)×0.7							
1.2(3.4+1.0)×0.6							
0.8(6.0+1.5)×1.5						—	石狩平野の中央に位置し、稲作を主とした平坦地で、内水による被害防止のため樋門、排水機場を新設するほか集水路を整備した。
3.9(13.8+9.0)×1.6						落差工等 10	空知平野の北部に位置し、石狩川沿いの肥沃な米作地で、地区内の主要幹線排水路が自然河川状態で洪水時に浸水被害が随所にかかるので、幹線排水路 5 路線を整備した。
1.3(4.9+1.0)×1.3							
6.5(23.5+19.9)×1.2							
3.3(7.3+3.7)×1.2							
3.3(10.6+5.5)×1.7							
10.2 (14.8+10.0)×1.6						分水工等162 落差工等 84	網走支庁管内美幌町に属する畑作酪農地帯で、地区を貫流する女満別川ほか幹線排水路は原始河川のため、常時過湿地が多いため排水改良と耕地整備を行った。
7.4(9.6+6.0)×1.3							
4.1(3.7+1.0)×0.9						落差工等 6	道西北部の留萌支庁管内遠別町に属する畑作酪農地帯で、泥炭地が多く、排水路河床が浮上り、排水不良による被害が甚大なため、幹線排水路の整備を行った。
1.8(9.1+4.6)×1.5							
3.5(7.2+3.0)×1.4							
0.8(4.6+1.0)×1.2							
5.1(14.6+5.0)×1.5						—	道北宗谷支庁管内浜頓別町に属し、盆地の畑作酪農地帯で、地区内排水幹線は原始河川の状態で、降雨ごとに浸水を起すので幹線排水路の整備を行った。
1.7(8.8+4.0)×1.6						調整池等 1 分水工等 41 落差工等 9	日高支庁管内、静内町に属し、水田 182 ha、畑 441 ha からなり、水田は明治 32 年に始まる。開拓排水路のみ整備されたが、他の三つの幹線排水路が自然河川で排水不良のため、これら排水路の整備を行った。
4.9(12.9+9.5)×1.2							
0.7(2.8+1.0)×0.6							
0.4(4.3+1.0)×1.2						分水工等111 落差工等 11	オホーツク海に面し、湧別川の東に沿った平坦地で大部分畑地からなり、幹線排水路の不備によって過湿地が多いので、幹線排水路、支線排水路網の整備を行った。
2.8(11.5+7.0)×1.8							
1.2(2.5+1.0)×0.5							
1.4(2.6+0.8)×0.6							
2.7(3.4+1.0)×0.8							
3.4(3.7+1.0)×0.9							
3.8(7.7+5.0)×0.9							
1.7(7.3+1.0)×2.1							

番号	県 名	地区名	事 業 名	用・排水 分区	取(排)水 源 名	受益面積 水 田 畑 (ha)	受益 戸数 (戸)	工事 期間	管理者	水路総 延 長 (km)	地 区			
											水 路 名	延長 (km)	平 均 配	計画最大 流量 (m³/s)
122	北海道	大 願	国営灌漑排水	排水	石狩川水系 旧美唄川	2,118 1,927 191	352	47～50	北 村	(0.6) 0.6	大願集水路上流部	0.3	1/3,000	20.5
											大願集水路下流部	0.3	1/1,500	2.0
123	〃	長 節	直轄明渠	〃	長 節 川	628 — 628	33	44～51	豊頃町 土地改良 区	(9.4) 9.4	第1幹線排水路	4.9	1/1,000	43.5
											第2幹線排水路	4.5	1/400	21.2
124	〃	東神楽	〃	〃	石狩川水系 忠 別 川	3,251 1,810 1,441	493	42～52	東神楽町	(18.5) 18.5	東神楽幹線排水路	13.3	1/500	56.4
											八千代幹線排水路	5.2	1/100	21.9
125	〃	下徳富	〃	〃	石狩川水系 石 狩 川	2,318 2,055 263	652	43～52	新十津 川町	(13.1) 13.1	旧樺戸川 幹線排水路	2.7	1/400	12.0
											新樺戸川 幹線排水路	2.2	1/300	17.7
											五号線川 幹線排水路	2.1	1/200	18.2
											下1号幹線排水路	1.4	1/500	13.5
											弥生川幹線排水路	2.2	1/1,000	7.0
											赤川集水路	1.2	1/2,000	0.9
											新樺戸川集水路	1.3	1/2,200	9.3
126	〃	西堀田	農地開発	〃	士 幌 川	1,154 — 1,154	249	43～52	士幌町	(27.7) 27.7	第1号明渠排水路	2.1	1/100	2.1
											第2号明渠排水路	4.2	1/200	8.6
											第3号明渠排水路	2.1	1/100	2.6
											第4号明渠排水路	7.4	1/100	9.7
											第5号明渠排水路	1.9	1/300	16.8
											第6号明渠排水路	2.0	1/100	2.6
											第7号明渠排水路	3.3	1/400	3.1
											第8号明渠排水路	3.5	1/200	2.8
											第9号明渠排水路	1.2	1/600	0.4
127	〃	川 合	直轄明渠	〃	十勝川水系 利 別 川	1,432 620 812	221	46～53	池田町 土地改良 区	(1.7) 1.7	川合幹線排水路	1.7	1/1,100	4.1
128	〃	福 住	〃	〃	網走川水系 美 幌 川	595 4 591	64	46～53	美幌町	(5.8) 5.8	福豊川幹線排水路	3.6	1/800	11.8
											南幹線排水路	1.4	1/200	0.8
											影の沢幹線排水路	0.8	1/900	1.0
129	〃	鷹 栖	〃	〃	石狩川水系 オサラッベ 川	1,650 1,356 294	678	43～53	鷹栖町	(13.6) 13.6	大成幹線排水路	4.9	1/500	19.6
											北成幹線排水路	3.2	1/1,000	42.9
											北斗幹線排水路	5.5	1/500	27.4
130	〃	ハイシュ ベツ	〃	〃	石狩川水系 ハイシュベ ツ川	1,260 529 731	225	45～53	鷹栖町	(5.5) 5.5	第1号幹線排水路	3.9	1/1,000	30.7
											第2号幹線排水路	1.6	1/300	11.9
131	〃	古 舞	〃	〃	十勝川水系 途 別 川	1,475 — 1,475	152	45～53	幕別町	(9.7) 9.7	古舞幹線排水路	9.7	1/400	15.9
132	〃	幌 呂	農地開発	〃	雪 裡 川	849 — 849	74	45～53	鶴居村	(10.3) 10.3	幌呂幹線排水路	10.3	1/700	96.7